

令和6年度

小学生名寄自然体験交流事業報告書



名寄市観光キャラクター
「なよろ」



杉並区次世代育成基金活用事業

令和7年3月
杉並区教育委員会

目 次

- 01 小学生名寄自然体験交流を終えて
杉並区教育委員会 教育長 渋谷 正宏
名寄市教育委員会 教育長 岸 小夜子
- 02 小学生名寄自然体験交流事業の概要
- 04 写真でふりかえる交流事業
- 08 派遣児童の作文・作品
- 33 問いも答えも自分の中にある
沓掛小学校 校長 浅見 優子
- 34 保護者の感想
令和6年度名寄市・杉並区交流事業

なよろ市立天文台「きたすばる」
令和6年12月26日

小学生名寄自然体験交流を終えて



杉並区教育委員会
教育長

渋谷 正宏



名寄市教育委員会
教育長

杉並区の交流自治体である北海道名寄市に小学5・6年生を派遣する「小学生名寄自然体験交流事業」は、今回で13回目となります。寒さの厳しい北海道名寄市だからこそ得られる、杉並では体験できない様々な経験を積んでほしいというねらいのもと、今回も派遣された子どもたちは、マイナス10度の寒さや雪深い大自然の中で見る満天の星空など、多くの「初めて」を経験しました。

子どもたちは、あらかじめ学びたいテーマを決め、下調べをしたうえで名寄市に向かい、名寄市北国博物館や天文台きたすばる、旭山動物園での学びや観察、カーリングなどの体験を通して、自ら設定した学習課題に積極的に取り組みました。また、雪原での自然観察や宝探しを行ったスノーシュートレッキング、そり滑り、雪合戦などの雪遊びでは、名寄市の子どもたちとの交流も深まり、環境の異なる同じ年代同士、ちがいを受け入れ合いながら互いに尊重し合う姿が見られました。

学習成果発表会では、自然や天文、文化などについて、それぞれが名寄市で学び体験したことを個性豊かな表現でまとめ、同じ体験をしても一人ひとりが得た学びは多様であったと実感しました。また、発表する児童の堂々とした佇まいや立派に挨拶をする姿からは、その成長を十分に感じる事ができました。

私は、名寄市での3日間、引率者として子どもたちとともに過ごし、短い期間ではありましたが、子どもたちは杉並では経験できない貴重な体験を通して、「触覚」、「聴覚」、「嗅覚」、「味覚」、「視覚」の五感を存分に使い、多くの学びを得られたと感じました。この体験は、派遣児童にとって忘れられない思い出となるとともに、将来の夢を考える中での一つの貴重な経験となることでしょう。

結びに、本事業の実施にあたりまして、子どもたちを温かく迎えてくださった名寄市の皆様、体調管理に万全を期してくださった保護者の皆様、そして次世代育成基金の趣旨にご賛同・ご支援をいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

本年度も杉並区の皆さんが「小学生名寄自然体験交流」で名寄市へお越しくださり、名寄市の参加者と交流を深めていただくとともに、事業を無事終了できましたことを大変嬉しく思います。杉並区の児童の皆さんが元気に参加され、名寄からも多くの児童が集まり、例年以上に和気あいあいとした雰囲気の中で交流を行うことができました。これもひとえにきめ細かな準備・運営など、ご支援・ご協力を賜りました杉並区の保護者、関係者の皆様のおかげであり、心より敬意を表し、感謝を申し上げます。

参加された杉並区の児童の皆さんには、北国博物館での展示室の見学、スノーシュートレッキングや雪中での宝探しによる名寄市の児童との交流、カーリング体験、なよろ市立天文台「きたすばる」の見学など、名寄市ならではの冬の自然や文化、スポーツに親しんでいただきました。

杉並区と名寄市の児童の皆さんは、対面式での班別の自己紹介ですぐに心を開きあい、打ち解けたように見えました。その後の北国博物館横のミズナラの原生林の中では、スノーシューを履いて駆け回りながら、お互いに協力して宝探しを進め、楽しそうに笑顔で交流しており、見ているこちらも元気をいただきました。天文台では2日目に金星や木星、土星を観測することができたと聞いております。また、専用シューズを履いて氷上を動き回ったりストーンを投げたりするカーリングは、思っていたよりも実際にプレーしてみると難しかったのではないのでしょうか？様々な名寄市の冬の体験を通して、新たな発見や学びのある充実した3日間を過ごしていただけたのであれば嬉しい限りです。

本事業は、「杉並区次世代育成基金」を活用して、次世代を担う子どもたちが様々な体験・交流を経て、夢を描き、その夢に向かって健やかに成長できる取り組みを支援する活動と伺っております。冬の名寄市での体験・交流が、本事業の目的に少しでも寄与できますよう、今後とも受け入れに最大の努力をし、杉並区との絆を一層深めていきたいと考えております。

結びに、本事業の実施にあたりましてご尽力を賜りました関係の皆様に重ねてお礼を申し上げますとともに、参加された児童の皆さんの健やかな成長並びに杉並区と名寄市の交流や相互理解がますます深まることを祈念申し上げ、挨拶いたします。

小学生名寄自然体験交流事業の概要

1. 目的

この事業は、杉並区次世代育成基金を活用して、交流自治体である名寄市に区内児童を派遣し、天体観測などの体験を通して自然の雄大さや大切さを学ぶとともに、名寄市の小学生との交流により、互いに尊重し合い、学びあう中で、豊かな人間性を育むことを目的としています。

2. 事業のスケジュール

令和6年 11月 1日(金)	結団式・第1回事前学習会・保護者説明会
11月 8日(金)	天文学習会(任意参加)
11月16日(土)	オンライン交流会
12月10日(火)	第2回事前学習会・保護者説明会
12月26日(木)～12月28日(土)	自然体験交流(北海道名寄市派遣)
令和7年 1月 8日(水)	学習相談会・保護者説明会
2月 8日(土)	学習成果発表会

3. 派遣児童名簿（学習・行動班）

班	氏名	学校名	学年
1 班	大谷 ひなき	高井戸第二小学校	5
	河合 多聞	松ノ木小学校	6
	鈴木 陽菜乃	東田小学校	5
	山内 瑠太	和田小学校	5
	養父 葵	桃井第四小学校	5
2 班	飯塚 夏海	和田小学校	5
	カルキ アライナ	桃井第二小学校	5
	河添 文	桃井第三小学校	5
	鈴木 優花	高円寺学園	6
	武内 夏美	八成小学校	5

班	氏名	学校名	学年
3 班	木下 大誠	浜田山小学校	5
	関 玲奈	西田小学校	5
	田中 理輝	桃井第三小学校	5
	角田 いおな	天沼小学校	6
	李 嘉琪	高井戸第三小学校	5
4 班	遠藤 愛	馬橋小学校	5
	佐々木 美織	堀之内小学校	5
	福森 香月	高井戸第四小学校	6
	森田 悠玄	井荻小学校	5
	山本 愛莉	桃井第二小学校	5
5 班	安西 泰誠	高井戸第三小学校	5
	塩野 健斗	済美小学校	6
	福留 梨里子	西田小学校	5
	眞砂 瑠依	荻窪小学校	5
	松井 悠	方南小学校	5

4. 引率者

渋谷 正宏	教育委員会教育長	本橋 宏己	生涯学習推進課長
浅見 優子	沓掛小学校校長	岸本 彩	生涯学習推進課管理係係長
山内 平	八成小学校主任教諭	鈴木 美貴	生涯学習推進課管理係主査
工藤 友香里	浜田山小学校教諭	今井 愛美	生涯学習推進課管理係
半野田 聡	済美教育センター教育相談担当課長	山口 京子	社会教育センター
松田 直也	済美教育センター指導主事	大迫 和暉	郷土博物館
小山 浩	済美教育センター理科教育指導担当		

ほか看講師 1 名

ほか看護師 1 名

小学生名寄自然体験交流事業（令和6年度）行程表

	1 日目 [12月26 日(木)]		2 日目 [12月27 日(金)]		3 日目 [12月28 日(土)]	
時間	曇り時々雪	最高気温 0.7℃ 最低気温 - 11.1℃		最高気温 - 5.1℃ 最低気温 - 8.2℃	晴れ時々雪	最高気温 - 3.4℃ 最低気温 - 15.7℃
6			6:00	起床	6:00	起床
7	7:30 7:45	児童集合 出発式	7:00 7:10	休暇村コテージ発 なよろ温泉サンピラー着(朝食)	7:00 7:10	休暇村コテージ発 なよろ温泉サンピラー着(朝食)
8	8:00	杉並区役所発	8:15 8:30	なよろ温泉サンピラー発 北国博物館着	8:15 8:25 8:55	見送り式 なよろ温泉サンピラー発 もち米の里☆なよろ着
9	9:15	羽田空港着		北国博物館見学	9:15	もち米の里☆なよろ発
10			10:00	名寄児童と対面式	10:45	旭山動物園着
11	11:00	羽田空港発 (JAL553便) 昼食 (機内)		スノーシュー トレッキング & 宝探し		グループ行動
12	12:50	旭川空港着	12:15	昼食		昼食 (園内)
13	13:30	旭川空港発		雪あそび		
14			14:00 14:15 14:30	名寄児童とお別れ式 北国博物館発 サンピラー交流館着	14:30	旭山動物園発
15	15:40	休暇村コテージ着		カーリング	15:00	旭川空港着
16	16:30 16:40	休暇村コテージ発 なよろ市立天文台きたすばる着 プラネタリウム鑑賞	16:30	サンピラー交流館発	16:20	旭川空港発 (JAL556便)
17	17:40 17:50	なよろ市立天文台きたすばる発 なよろ温泉サンピラー着 入浴	17:00	なよろ市立天文台きたすばる着 天体観測		
18	18:50	夕食	18:20 18:30	なよろ市立天文台きたすばる発 なよろ温泉サンピラー着 入浴	18:40	羽田空港着
19	19:20 19:30	なよろ温泉サンピラー発 休暇村コテージ着	19:20	夕食	19:00 19:50	羽田空港発 杉並区役所着・到着式
20		実験タイム と 学習のまとめ	20:10 20:20	なよろ温泉サンピラー発 休暇村コテージ着	20:15	解散
21	21:00	就寝	21:00	就寝		

★ 結団式・第1回事前学習会 令和6年11月1日(金)

この日が初めての顔合わせ。自己紹介などを通して一緒に学ぶ仲間や先生と交流を図り、名寄の気候や農作物、文化、歴史など様々なことを学びました。



★ 天文学学習会 令和6年11月8日(金)

天文台「きたすばる」の職員の方から、名寄市や天体についての説明を聞いたことで、名寄市への理解が深まり、杉並との違いに気づきを得ることができました。また、実際に天体望遠鏡や移動式天文台車「ポラリス2号」で天体観測を行いました。



★ オンライン交流会 令和6年11月16日(土)

名寄市とオンラインでつながりました。名寄市職員の皆さんから「北国博物館」や天文台「きたすばる」についてのお話を聞いたり、名寄市の児童とご当地クイズ大会をするなど交流を深めました。



★ 第2回事前学習会 令和6年12月10日(火)

名寄市派遣に向けて、自ら考え各々の学習課題を設定しました。



★ 名寄派遣 第1日目 令和6年12月26日(木)

区役所での出発式のあとは、早速、北海道名寄市へ向かいます。これからの3日間では、事前に設定した学習課題を解決するため、名寄の皆さんから話を聞いたり、観察・調査・実験などに取り組みます。



きたすばるでプラネタリウム鑑賞

天文台「きたすばる」でプラネタリウムを鑑賞し、名寄の星空について学びました。また、光学赤外線天体望遠鏡「ピリカ」を前に望遠鏡の仕組みを学びました。



実験タイムと学習のまとめ

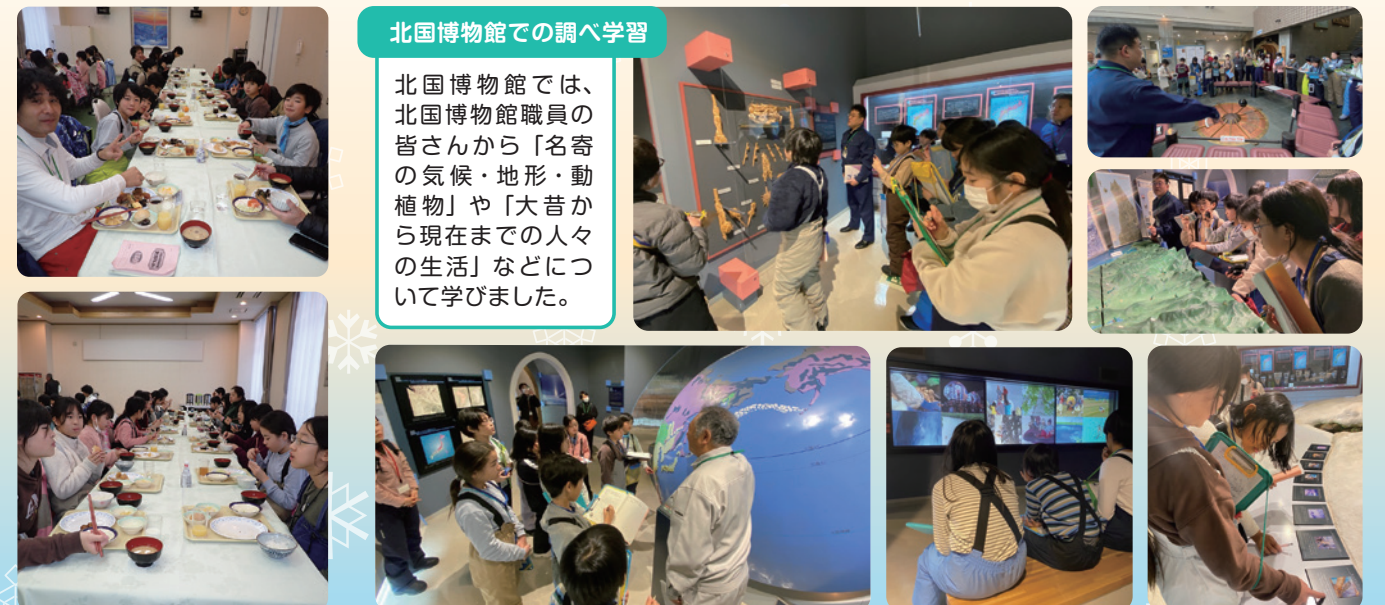
夕食後は、それぞれ考えてきた実験に挑戦しました。



★ 名寄派遣 第2日目 令和6年12月27日(金)

北国博物館での調べ学習

北国博物館では、北国博物館職員の皆さんから「名寄の気候・地形・動植物」や「大昔から現在までの人々の生活」などについて学びました。



対面式・スノーシュートレッキング

名寄市児童との対面式・交流を行ったあとは、スノーシュートレッキング体験へ。深く積もった雪をかき分けながら、真っ白な平原を歩きました。一緒に宝物を探す中で、杉並と名寄の児童の仲はより一層深まりました。

対面式



スノーシュートレッキング



カーリング体験・天体観測

サンピラー交流館では、初めてのカーリング体験。コーチの丁寧な指導のもと、最後には簡単なゲームもできるようになりました。たくさん体を動かした後は、天文台「きたすばる」に移動。屋上観測室では、雲の切れ間から、金星や土星などを観測することができました。

カーリング体験



天体観測



★ 名寄派遣 第3日目 令和6年12月28日(土)

朝食後、名寄市を出発する私たちを、岸教育長をはじめ、お世話になった名寄の方が見送りに来てくださり、温かな言葉をいただきました。途中、道の駅でお土産の買い物をし、旭山動物園へ向かいました。旭山動物園では、学習行動班ごとに自分たちで考えたルートで行動し、見学をしました。

見送り式



道の駅



旭山動物園でのグループ行動



帰り道



到着式



★ 学習成果発表会 令和7年2月8日(土)

今回の交流事業を通して学んだこと、感じたことなどを、一人ひとりの児童が作品や作文にまとめステージ上で発表を行いました。



学校名	東田小学校	5 年	氏名	鈴木 陽菜乃
-----	-------	-----	----	--------

名寄の魅力にふれて

私が名寄の体験学習事業に参加した理由は杉並区役所で売っていた名寄のアスパラが大好きでどのようなところで栽培しているか興味を持ったからです。ある年名寄のアスパラを買った時にひまわりの種をもらいました。そのひまわりの種を育ててみると背丈が小さくてかわいらしい元気なひまわりが咲きました。おいしいアスパラとかわいいひまわり。なんだか夏の名寄が見えてくるようでした。冬は、寒さが厳しい北海道。その生活が体験できると知り、名寄の環境を学びたいと思い応募しました。

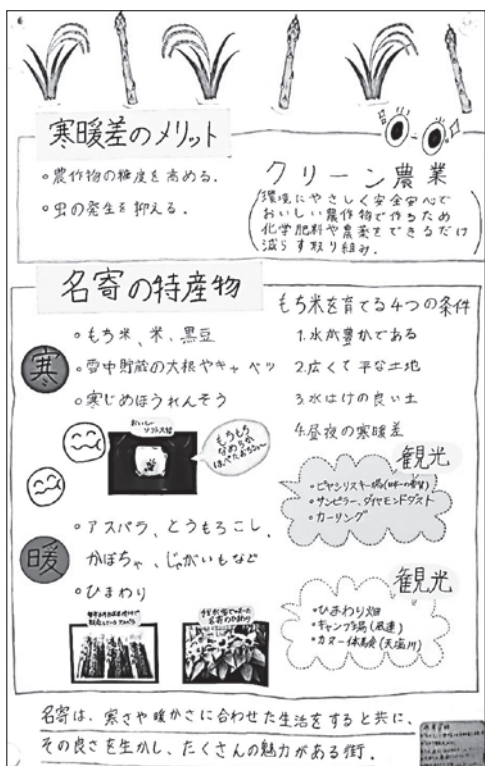
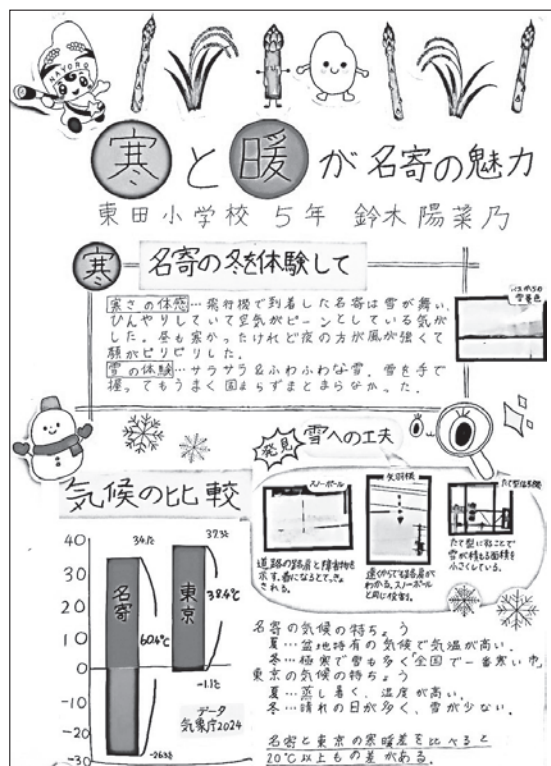
東京から飛行機に乗り、旭川空港に降りたとき、とても寒く感じました。さらに、夜は風が強くより寒さを感じました。調べてみると名寄は昼夜の寒暖差が大きいようです。そして冬と夏の寒暖差も大きく、その差は六十度にもなることがあるそうです。この寒暖差があるという環境が農作物の糖度を高め、虫の発生を抑えることにつながっています。

この環境は、名寄の名産品であるお米やもち米にも関係しています。良いもち米を育てるには、四つの条件が必要と言われています。一つ目は、水が豊かであること。二つ目は、広く平らな土地があること。三つ目は、水はけが良い土があること。四つ目は、昼夜の寒暖差があることです。この条件は、名寄の環境に合っていると考えられます。二日目のおやつで食べた名寄のもち米を使ったソフト大福はもちもちしているのになめらかでやわらかくとても美味しかったです。

名寄の雪はとてもふわふわでやわらかく、ソリ滑りで転んで雪に突っこむことすら楽しかったです。杉並の雪は、雪の粒が大きくザラツとし、水っぽくその違いは家で作るかき氷と店で食べるかき氷くらい違いました。これは名寄の気温が低く、空気中の水蒸気の量が少ないからだと学びました。このような環境に適した生活がとても素敵だと思いました。私も、自分のいる環境の特性を学び、生かしながら生活することで素敵な暮らしができるよう頑張ります。

この交流事業では、たくさんの方々が協力してくださり、仲間との共有した時間や名寄で学び、経験したことを、これからの生活にいかしていきたいと思います。

本当にありがとうございました。



学校名	和田小学校	5 年	氏名	山内 瑠太
-----	-------	-----	----	-------

名寄の自然体験を通してのかまくら研究発表

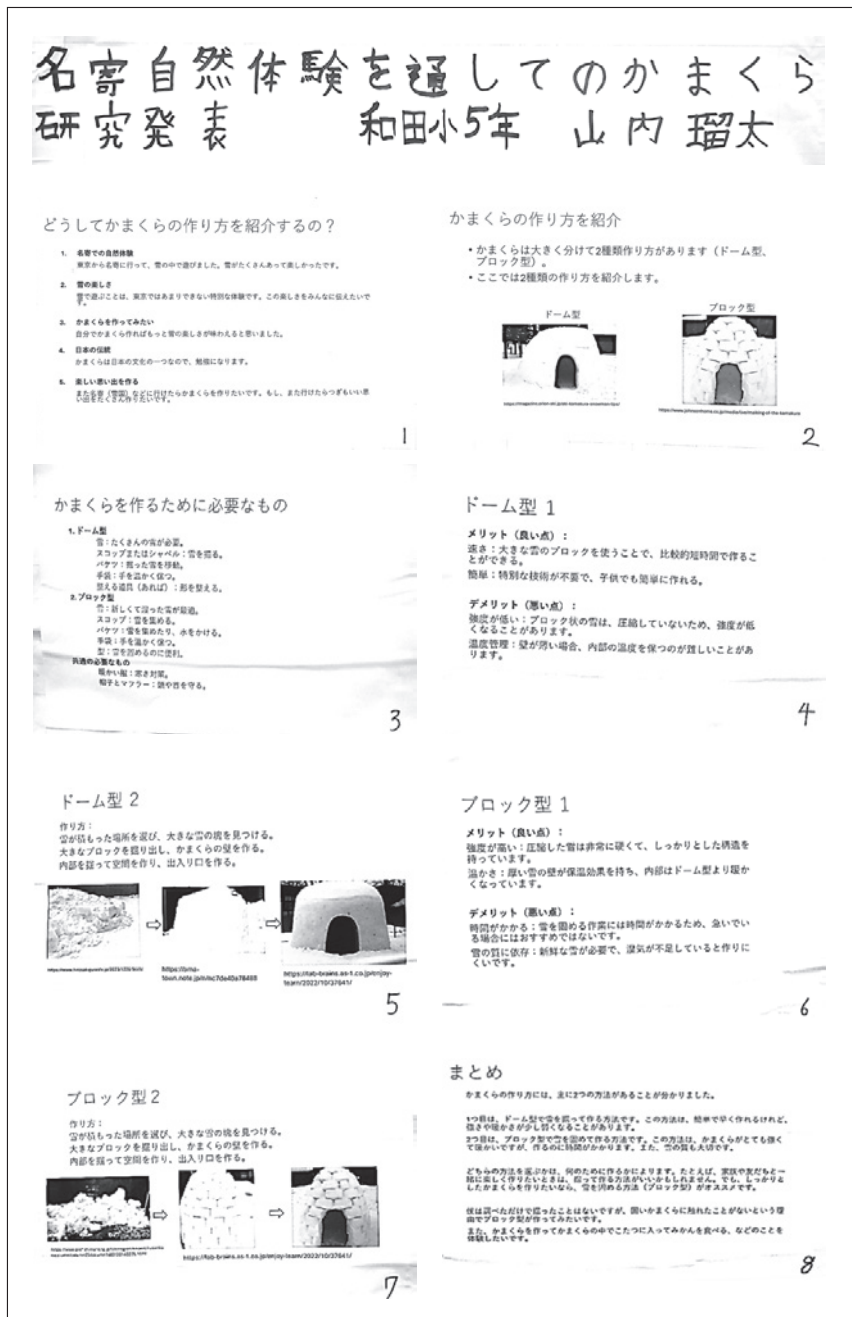
皆さんはソリに乗ったことがありますか？僕は、名寄で初めてソリを体験しました。ソリですべる雪の急しや面はしんせんでとても楽しかったです。急しや面をのぼるのは、大変だったけどすべる楽しさの方が上でした。僕は、5、6回のぼったりすべったりしました。転んでも雪がふかふかでいたくなかったのもっとたくさんすべりたかったです。飛行機が飛び立つ時と同じ速さくらいに感じました。

続いての雪体験は、かまくらです。同じ雪なのにソリの雪とはちがい、とても固い雪になっていました。何でソリの雪とかまくらの雪でこんなに固さが変わるのか気になりました。すでに作られていたのかまくらの作り方が分からなく気になったので、調べて作品に載せました。なぜかまくらの中はあたたかいのかなども調べました。良かったら見てください。

次にカーリング体験をしようかします。最初は転びそうでこわかったけれど、なれてくればこわく

なくなりました。ストーンは持ち上げればとても重いけどすべらせればとても遠くまで飛んでいくことも分かりました。カーリングの遊びで一度だけ中心部に止めることができました。全部で4試合やりました。次に名寄に行ける機会があったら今度は家族とカーリングをしてカーリングの楽しさを家族みんなに教えたいです。

最後に実験タイムでしたことについて発表します。実験タイムでは、ぬれたタオルを外でふりまわしたら何秒でこおるかという実験をしました。最初は40秒くらいでこおるかな？と思っていたけれど他の子にも手伝ってもらいやってみると4、5分かかったのでおどろきました。こおったタオルをかいとうするのは少し時間がかかりました。実験タイムをした時の気温は-3℃くらいだったので次はもう少し低い気温の中でやってみたいです。以上が僕の名寄の雪体験です。



学校名 桃井第四小学校

5 年

氏名

養父 葵

北海道の厳しい自然の良いところと楽しさや工夫

名寄訪問にあたり私は一つ学習目的を持っていました。北海道といえばその厳しい寒さや雪です。それらは、東京に住む者にとっては交通機関の麻痺、スケジュールの遅れをもたらす原因となり、あまり歓迎されるものではありません。しかし、その厳しい寒さや雪にも実は北海道の住民にとっては「益」をもたらす存在かもしれないと考え、どのような益があるのかを調べることにしました。

今回北国博物館でインタビューすることができ、二つのことが分かりました。

一つ目は、名寄ではもち米が日本一有名な理由が名寄市の昼夜の寒暖差があることです。それがあることにより、病害虫が少なくきれいな栽培が行われ安心・安全のもち米づくりができます。その、寒暖差は私たちにとっては体調不良をもたらす原因と考えておりますが名寄にとっては良いところもあるという驚きの結果でした。もし、その寒暖差がなかったら名寄の柔らかく硬くなりにくいもち米が作れなかったかもしれません。だから、名寄の寒暖差はとても大事なことだと分かりました。

二つ目は、雪が降ったり寒くなるときれいな景色が見られたりすることです。例えば、サンピラー、ライトピラー、ムーンピラー、ダイヤモンドダストなどとてもきれいな景色が見られるのも寒さや雪のおかげだとわかりました

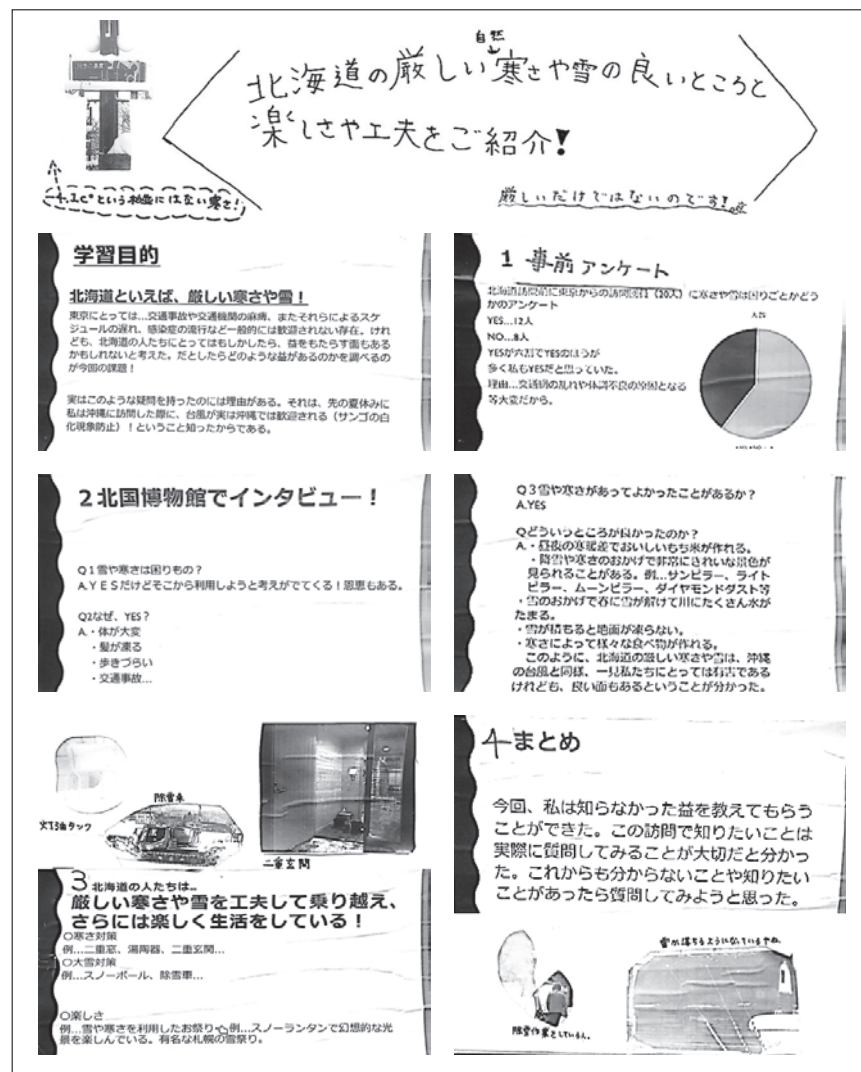
加えて、北海道の人たちは厳しい寒さや雪を利用して楽しく生活していることや工夫していることが

分かりました。例えば、雪や寒さを利用したお祭りなどがあり、東京ではできない楽しいお祭りを開催して雪や寒さを生かしていたりしていました。スノーランタンなどは雪を生かしてつくってとてもきれいなものが見られます。

寒さ対策の工夫は、二重窓や湯陶器の利用です。これは5年の一学期に学校で学習したとおりで、この目で確かめることができました。

このようなことから、北海道の厳しい自然は北海道の人たちにとって良いことが分かり、利用したり工夫をしたりして楽しくらせていることが分かりました。

この訪問で知らなかったことを実際に質問してみることが大切だと思いました。これからは、知らないことや分からないことを質問しようと思いました。



学校名

和田小学校

5 年

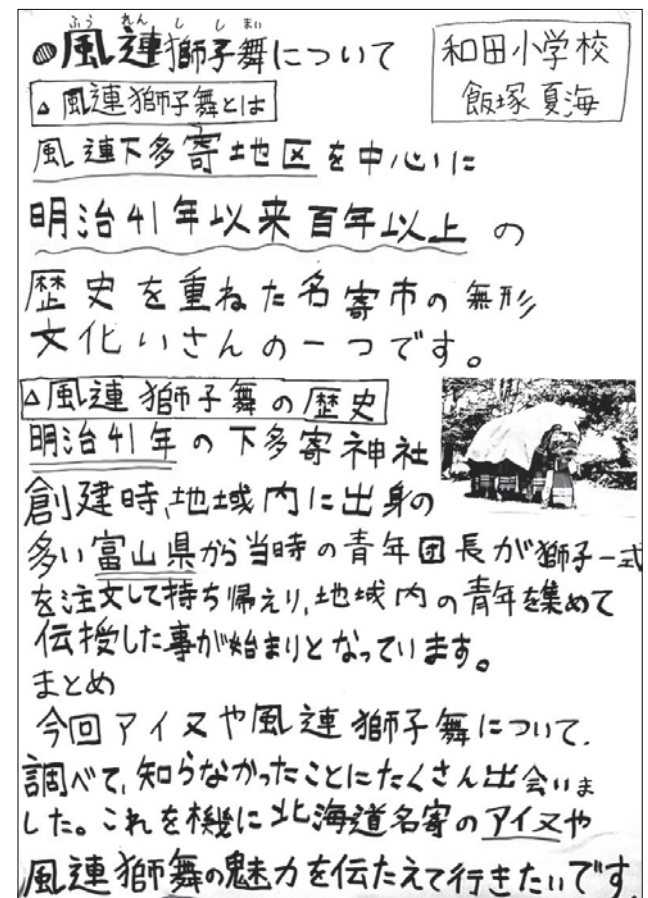
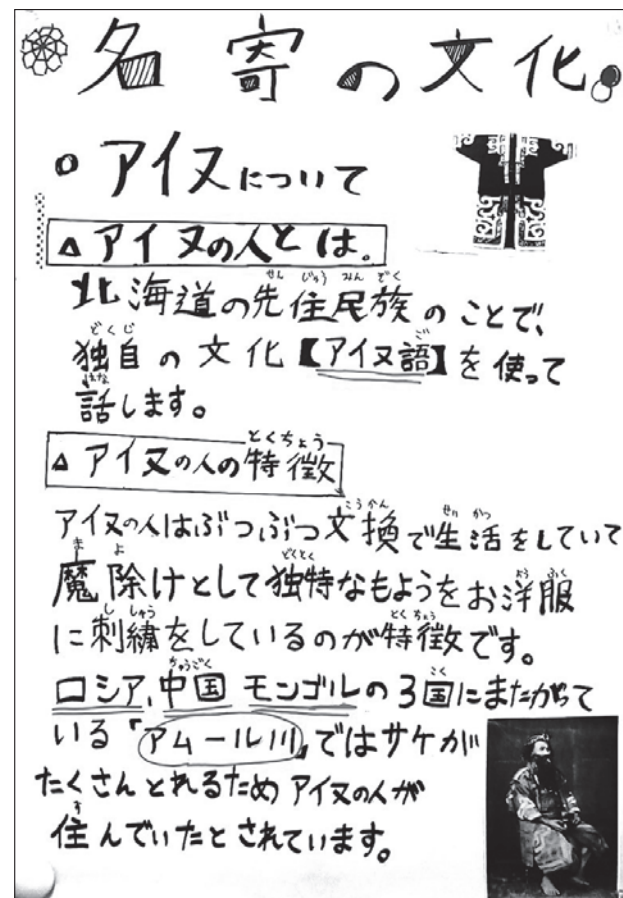
氏名

飯塚 夏海

名寄の文化

私はアイヌと風連獅子舞について調べたので発表します。北国博物館に行った時にアイヌの人々の標本があって今自分の着ていた服と、全然ちがくておどろいたので興味を持って調べてみることにしました。まずはじめにアイヌについて発表します。アイヌの人々とは北海道の先住民族の事で独自の文化、【アイヌ語】を使って話します。アイヌの人々はぶつぶつ交換で生活をしたり、また魔除けとして独特なように刺繍された服を着ているのも特ちょうの一つです。アイヌの人々は食料も自分たちで集めます。ロシア、中国、モンゴルの3か国にまたがっている「アムール川」ではサケがたくさんとれていたと言われています。そのため近くにはアイヌの人々がたくさん住んでいたともわれています。次に調べたのは風連獅子舞です。風連獅子舞とは風連下多寄地区を中心に明治41年以来百年以上の歴史を重ねた名寄市の無形文化いさんの一つです。風連獅子舞は明治41年の下多寄神社創建時、地域内に出身の多い富山県から当時の青年団長が獅子一式を注文して持ち帰り、地域内の青年を集めて伝授したことが始まりとされています。獅子一式とは獅子舞のセットの事で、当時の青年団長だった山田次郎氏と有志、沼前岩松氏が師匠となって青年たちに獅子舞を教え続けた。と言われています。私が調べてみたところ大正時代では町内外の行事に招かれたり、さらに戦後にはテレビで全国に放送されたこともありました。すごいですね。

最後にこんかい名寄へ行って学んだことの感想をまとめました。今回、名寄で様々な物、人、出来事に会ってたくさんのきょうな体験をすることができました。2日目の博物館では昔の人が寒さを楽しめるための知えや工夫に学ばされることがたくさんありました。今回アイヌや風連獅子舞について調べて、知らなかったことにたくさん出会えて今度北海道名寄にいききかいがあったら、今度はもっと調べてみたいです。獅子一式をかった青年団長の人達も獅子舞が大事な存在だったのかな。と思いました。



学校名	桃井第二小学校	5 年	氏名	カルキ アライナ
-----	---------	-----	----	----------

北海道に生息している動物と絶滅危惧種と犬とおおかみ

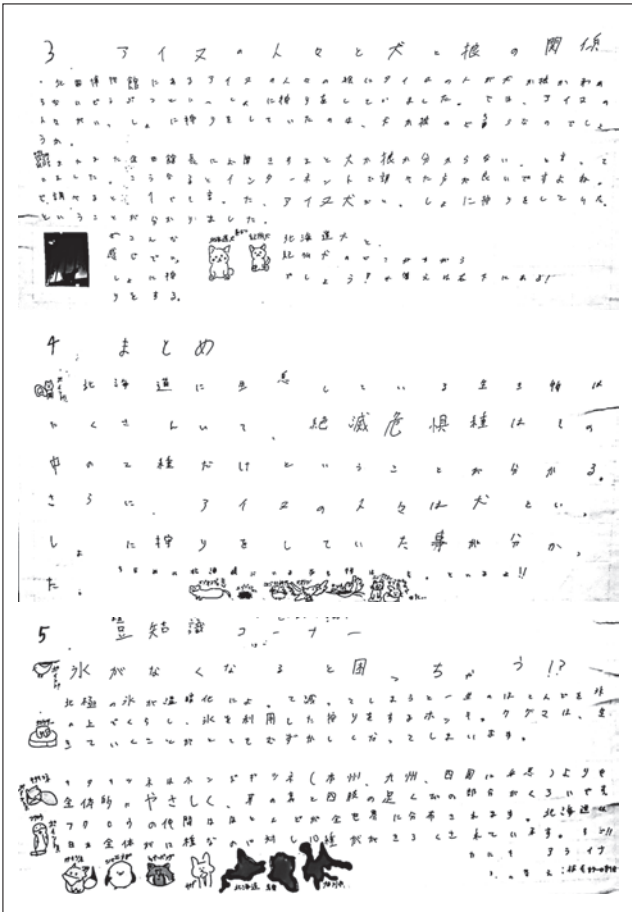
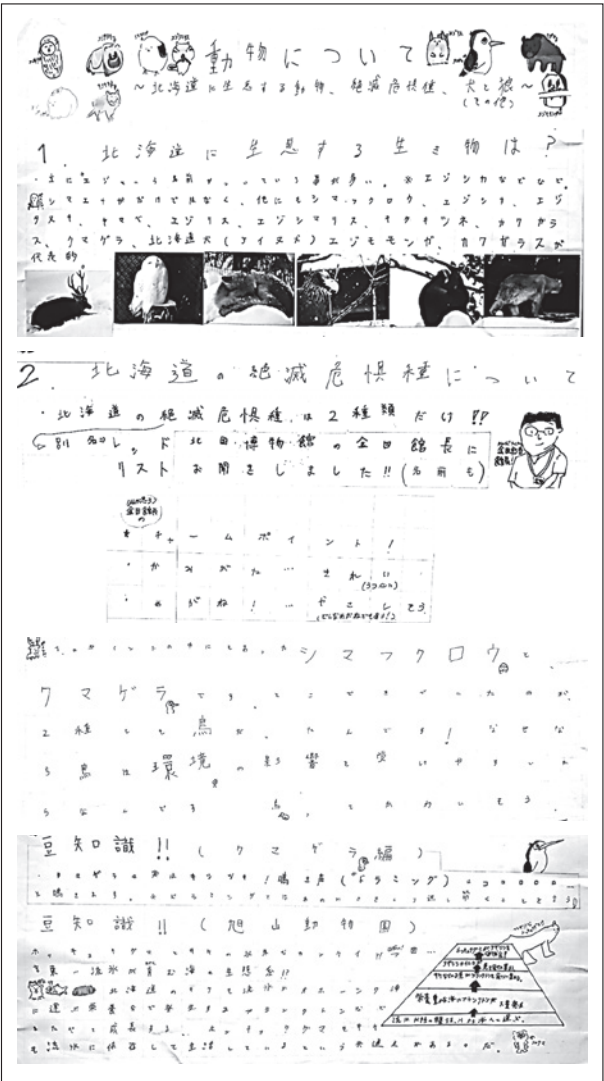
私は名寄で北海道に生息している動物と絶滅危惧種と犬とおおかみについて調べました。

北海道に生息している動物はシマエナガが代表的ですが、他にもたくさん生息しています。キタキツネ、エゾジカ、エゾタヌキ、エゾフクロウ、エゾモモンガ、カワガラス、ヤマゲラ、ヤマベ、北海道犬、クマゲラ、エゾリス、エゾシマリス、エゾフクロウなど、たくさんいます。

わたしは、これだけ種類があると絶滅危惧種も多いのではないかと気になったので、北国博物館の金田館長に聞いてみました。な、なんと!!絶滅危惧種は2種るいだけなんです。その2種るいとは、シマフクロウとクマゲラです。ふたつとも鳥ですね。なぜ鳥なのか気になったのでしらべると、鳥は環境の影響をうけやすい、ということからだんだんへってきている、ということです。

最後に犬とおおかみは、アイヌの人たちといっしょにかりをしていたのでしょうか。これは北国博物館のアイヌの人たちの絵に犬かとおおかみかわからないけものがえがかれていたのでまた金田館長にお聞きしました。聞くと、とおおかみか犬か分からないが、とおかみが絶滅したから犬かな、といていたのでアイヌの人たちは犬をつかっていっしょに狩りをしていたことが分かりました。

まとめると北海道に生息している生き物はたくさんいて、絶滅危惧種はその中で2種るいだけということと、アイヌの人たちは犬といっしょに狩りをしていたということが分かりました。



学校名	桃井第三小学校	5 年	氏名	河添 文
-----	---------	-----	----	------

北海道の動物

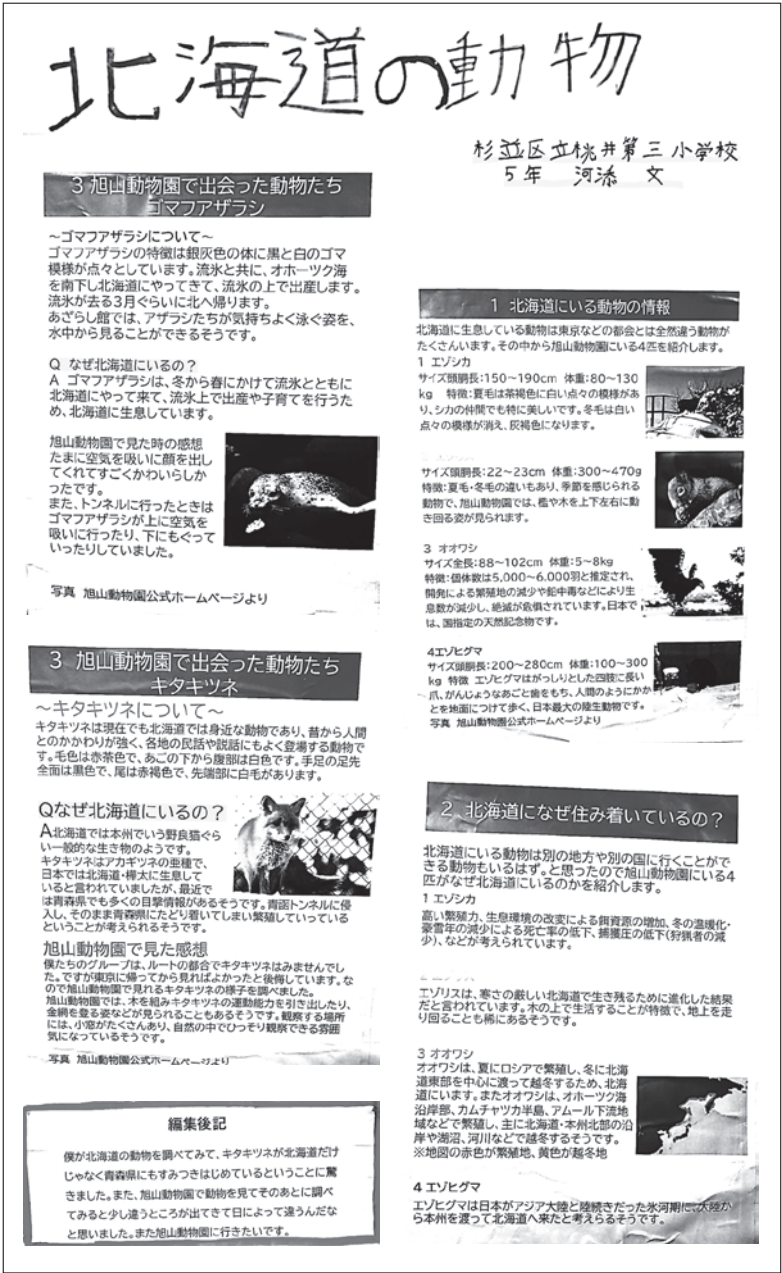
北海道には、東京などの都会とは全然違う動物がたくさん生息しています。旭山動物園にはエゾシカ、エゾリス、オオワシ、エゾヒグマ、ゴマフアザラシ、キタキツネなどがいます。これらの動物たちがなぜ北海道に住み着いているのかを紹介します。エゾシカは冬の温暖化・豪雪年の減少による死亡率の低下などの環境の変化が原因とされています。エゾリスは寒さの厳しい北海道で生き残るため進化した結果だと言われています。オオワシは、夏にロシアで繁殖し、冬に北海道東部を中心に渡ってえっとうするため、北海道にいるそうです。エゾヒグマは日本がアジア大陸と陸続きだった氷河期に、大陸から本州を渡って北海道に来たと考えられるそうです。

次に、ゴマフアザラシとキタキツネを詳しくしらべたので紹介します。ゴマフアザラシの特徴は銀色の体に黒と白のゴマ模様が点々としています。ゴマフアザラシは、冬から春にかけて流水とともにオホーツク海を南下して北海道にやって

来ます。流水上で出産や子育てを行うため、北海道に生息しています。ゴマフアザラシを実際に見た感想は、たまに空気を吸いに顔を出してくれてすごくかわいらしかったです。

次はキタキツネです。キタキツネの毛色は赤茶色で、あごの下から腹部は白色です。手足の足先全面は黒色で、尾は赤茶色で、先端部に白毛があります。なぜ北海道に住み着いているのでしょうか。キタキツネはアカギツネの亜種で、日本では北海道・樺太に生息していると言われていましたが、最近では青森県でも多くの目撃情報があるそうです。

僕たちのグループは、ルートの都合でキタキツネは見ませんでした。ですが東京に帰ってから見ればよかったと後悔しています。そのため僕はキタキツネの様子を調べました。旭山動物園では、木を組みキタキツネの運動能力を引き出したり、金網を登る姿などが見られることもあるそうです。北海道にいる動物を調べてみて東京にはいない動物がたくさんいるということがわかりました。また旭山動物園に行きたいです。



2班

また行きたいよ！ 名寄市！！

私は、名寄に行って沢山の思い出と、そこでしかできない体験をすることができました。特に印象に残ったのは、空港から出て、すぐ目に飛び込んできた、名寄特有のふわふわさらさらの雪です。名寄の雪は、ぜひ一度触ってみてほしいです。そして、一日目の実験タイムでは、皆で雪遊びをしました。その中でも、雪に登って、後ろにダイブして星空を眺めたのが人生初で、忘れられない体験になりました。雪はふかふかの羽毛布団のようでした。

次に、私が実験タイムで驚いたことです。一つ目は、外の -4.5°C の世界で、シャボン玉が凍ったことです。シャボン玉は飛ばさず、棒につけておくと凍りました。

二つ目は、スライムを雪の中に埋め、三日目の朝にスーツケースに入れ持ち帰り夜十時ごろに取り出しても、まだ冷えていて、周りに水滴がつくことなく凍っていたので驚きました。そして、保冷剤代わりにもなると思いました。

次に、私が名寄に行き印象に残ったことは、スキーウェアについていた雪の結晶の形が少しずつ違ったことです。意識して見るのは初めてだったので、驚きました。

最後は、私が名寄に行って不思議に思ったことです。一つ目はなぜ、木の枝に雪がたくさん積もっても、落ちないのかなと思いました。名寄の雪は水分量が少なく乾燥しています。そのため結晶が小さく、空気を多く含んでいるので枝に絡みやすく、落ちなかったそうです。

二つ目はなぜ、スライムが長時間溶けなかつたのか不思議でした。それは、スライムは、ゲル状の構造によって熱が伝わりにくく溶けなかつたそうです。東京に帰ってから調べて分かりました。このことは、今後もう少し研究してみたいです。

名寄での体験は私にとって宝物です。普段とは違った体験をすることができ、参加することができて本当に良かったです。学んだことを大切に、これからもがんばっていきたいと思います。ありがとうございました。

また行きたいよ

杉並区立五反田小学校
 八幡町五反田
 武内夏美

不思議〜!!なんでもかき
 解決してみた
 私が名寄市不思議に思ったことを
 言わねばならぬ

実験①「ガラス玉」こんなことしてみたら
凍た!!「しゃぼん玉」実験②「突然冷凍庫で」

名物の雪質にひみつ

2024年12月26日 20時頃、
しゃげん玉が凍りました。(4)
※その時の気温は-4.5度でした。
ガラス玉のようでした。

2日間スライムを雪の中
に埋めたまま置きました。

朝、スライムスライスに入れ持ち
替え、夜取り出し、スライムを
スライス。

非常に低くなります。気温が低く、乾燥するのと降雪の水分量が少なく、軽く
うねてします。

不思議
ポイント②
なぜ？
スライムが
凍る？

スライムが凍る？
スライムが凍る？
スライムが凍る？

不思議
ポイント③
なぜ？
スライムが
凍る？

スライムが凍る？
スライムが凍る？
スライムが凍る？

体験① ふかふか雪にダイブ!! 風は、暗れたせいに空の下で 寂は差しい。早空の下で電に 溶けることなくまた冷 え澄んでビックリした。 スライムを凍らせる、 保冷剤の代わりになると思 った。

[illegible]

学校名	浜田山小学校	5 年	氏名	木下 大誠
-----	--------	-----	----	-------

アイヌ民族の信仰と暮らし

今回の体験学習に参加し、アイヌ民族の歴史に深く興味を持ちました。まずアイヌ民族の信仰を面白く感じました。アイヌの人々は、火や水、動植物などを、カムイと言い敬いました。カムイとはアイヌ語で神という意味です。カムイは人々に、恵みを与え、自らの役割を果たすため、物や動物に姿を変えて、人間界にやって来ると信じられています。また人間の力ではどうにも出来ない災いは、悪いカムイの仕業だと考えました。人間界での役割を果たしたカムイは、神々の世界へ帰ります。その時アイヌの生活に必要なカムイが再びやって来る事を願い、カムイノミという儀式を行います。儀式ではカムイが喜ぶとされるお酒やだんご、サケなどの食べ物を供え、感謝の祈りを捧げます。人が動物を狩り、肉などを得る事は動物の命も奪うことですが、代わりに最高の礼をつくすことでまた人間界に来てくれると考えました。またアイヌ民族の暮らしにも興味を引かれました。アイヌの人々は、コタンという集落に暮らし、狩りや漁はコタンの村長を中心に行われました。家の事をアイヌ語でチセとよび家の正面にある窓は神々が出入りする場所とされ、その窓をのぞくことは許されませんでした。1850年頃、北海道のほぼ全ての土地にアイヌ民族が生活していました、しかし1869年に日本政府がアイヌの人々に何の断りもなく、一方的に北海道を日本の一部としました。またアイヌ民族を日本国民としましたが、実際には旧土人と称し、差別的な扱いを続けたのです。1877年には北海道地券発行条例により、官有地とし、開拓を行いました。これにより、アイヌ民族は土地を失いアイヌ以外の、和人に与えられました。しかも名前さえも和人風に変更させられたのです。そのようにしてアイヌ民族は減少させられましたが、近年では、アイヌを保護する活動も、増えてきています。今後は、僕のように多くの人がアイヌに関心を持って欲しいと感じました。

アイヌ民族の信仰と暮らし

「信仰」について

アイヌ民族は、火や水、動植物を、

カムイ = 神 として敬まつた。

道具も
カムイだよ

…人間界に姿を変えてやってくる。

『カムイノミ』…カムイを神々の
世界へ送り帰す儀式。

カムイの様子

最高の礼をつくすこと

また人間界に
やってくる

とアイヌ民族は、
考えていた。

「アイヌくん」

「暮らし」について

アイヌの人達はコタン(集落)で
チセ(住居)に暮らしていた。

…狩りや漁は村長中心に行なわれた。

1869年 この島は北海道だ 日本の一部に

→開拓を行い、町や道路、港や汽車まで。

1877年「北海道地券発行条例」

→アイヌの暮らしの地はすべて官有地に!!

同化政策

アイヌ ⇒ 和人

今はアイヌを保護する
活動が増えているよ

浜田山小学校
木下大誠

主な食べ物

	キムン カムイ ヒグマ
	ユク シカ
	インボ ウサギ

出典: 北海道アイヌ民族文化財団 アイヌ民族: 歴史と現在
旭川市・小樽市・社会科教育課

学校名	西田小学校	5 年	氏名	関 玲奈
-----	-------	-----	----	------

名寄市の雪 ―雪質日本一の秘密―

私は、名寄で雪を触って、東京のべちゃべちゃとした雪と違い、さらさらでふわふわなことにとってもびっくりしました。名寄の雪は、パウダースノーを超えたシルキースノーで雪質日本一と言われているそうです。そこで私は、その秘密について調べました。

雪質の違いは、空気中の水蒸気の量と気温によるそうです。水蒸気の量が多いと、上空で雪の元となる氷の結晶が多数作られ互にくっついて、雪片が大きくなります。東京のように気温が高いと、雪片がやや溶けた状態で降るため、べちゃべちゃの雪（水雪）になります。名寄のように気温が低く水蒸気の量が少ないと、結晶が大きくなりませんので、さらさらふわふわの雪（粉雪）になります。

冬の北海道は、大陸の高気圧とカムチャッカ半島付近の低気圧によって西高東低の冬型の気圧配置になり、冷たい季節風が高気圧から低気圧に向かって吹きます。この季節風は、暖流が流れる日本海の上を通るときに湿った空気を含み、天塩山脈にぶつかり上昇し、まず日本海側に雪を降らせます。雪を降らせて乾燥した空気は天塩山地を越え、北見山地にぶつかり、さらに上昇しながら冷やされ雪

雲となり、名寄市に雪を降らせます。このように名寄市は、天塩山地と北見山地に囲まれているため、気温が低く空気中の水蒸気の量が少ないため、さらさらふわふわの日本一の雪質の雪（パウダースノーを超えるシルキースノー）が降るそうです。

今回は見られませんが、名寄では、空気中の細水に太陽の光が反射して光の柱が現れるサンピラー現象、木々に氷の花が咲いたような樹氷、樹氷と着雪を繰り返してできるスノーモンスターなど、名寄ならではの自然現象がいろいろと見られるそうです。

私は、この三日間はいろいろな初体験をすることができ、北海道が大好きになりました。今度は家族と一緒にまた名寄に行きたいと思います。

[illegible]

学校名	桃井第三小学校	5 年	氏名	田中 理輝
-----	---------	-----	----	-------

名寄の昔と今

私は、名寄の昔と今について調べました。

まず、名寄の昔について紹介します。

最初の「無土器時代」は、細石刃と呼ばれる石器を作っていました。細石刃は十勝石で作られていました。その後、徐々に本州から鉄器が伝わってきました。これを「続縄文時代」と言います。なぜ、弥生時代ではないのかというと、本州から稲作などは伝わってこなかったからです。

その後の「擦文時代」では織物作りもしていたそうです。また、同時期に「オホーツク文化」も生まれました。

つぎに、北海道の先住民族である「アイヌ文化」について紹介します。「アイヌ文化」の特徴として、自然のものをすべてを神として祀るということが挙げられます。時は過ぎ、江戸時代になると、高橋壮四郎や松浦武四郎などが天塩川流域を調査しました。そこから、開拓が進んでいきましたが、1800 年代前半になると開拓の影響を受けて、アイヌ民族は半減してしまいました。私は、開拓はそんなにひどいものだったんだなということを感じて、つらい気持ちになりました。

ここからは名寄の今について紹介したいと思います。

最初に観光です。

一つ目は、「道の駅 もち米の里☆なよろ」です。もち米を使用した特産物などを売っています。レストラン「風の寄り道」もあります。思った以上に店内が広く、たくさん特産品などを売っていました。私は、もち米 1kg とソフト大福 5 こを買いました。

二つ目は、「なよろ市立天文台 きたすばる」です。アイヌ語で美しいという意味の「ピリカ」望遠鏡もあります。当日は、雪がすこし降っていたため、望遠鏡で見ることは叶いませんでしたが、肉眼で少し星を観ることができました。今度、名寄に行く機会があったら、ピリカ望遠鏡から星をながめてみたいのです。

三つ目は、「北国博物館」です。名寄の自然と歴史について学ぶことが出来ます。また、全国で唯一残された SL 排雪列車「キマロキ」も夏期間に限り展示されているそうです。実際に行ってみて、土器や祭器などを自分の目で一つ一つ確認することができました。

つぎに、特産品です。

一つ目は、「もち米」です。ソフト大福ももち米から作られています。毎月 10 日は「名寄もち米の日」になっています。

二つ目は、「ジンギスカン」です。2022 年 3 月文化庁の「100 年フード」に登録されました。実際に食べてみて、初めての風味でしたが、とても美味しかったです。

三つ目は、「ひまわり」です。「ひまわり油 北の輝き」や豚肉にも活用されているようです。

最後に、市のシンボルです。

市の花は、「オオバナノエンレイソウ」で、4 月から 5 月ころにかけて北海道に生えます。

市の木は、「シラカバ」で、市内にシラカバの名前がついた施設などもあります。



つぎに、市の鳥です。市の鳥は「アカゲラ」で、風連町との合併以前の旧名寄市の頃も市の鳥として親しまれていました。

この交流を通じて、名寄市に実際に行ってみてアイヌのくらしや天文台の話など様々なことを学ぶことが出来ました。さらに、友達と雪合戦をし、普段感じることのないサラサラな雪を体感し、それも学べたことの一つだと思います。これから、アイヌや天文学、さらには、旭山動物園で学んだ動物についても学んでいきたいと思っています。

学校名	天沼小学校	6 年	氏名	角田 いおな
-----	-------	-----	----	--------

アイヌ文化の入れ墨と北海道の在来種エゾアカガエル

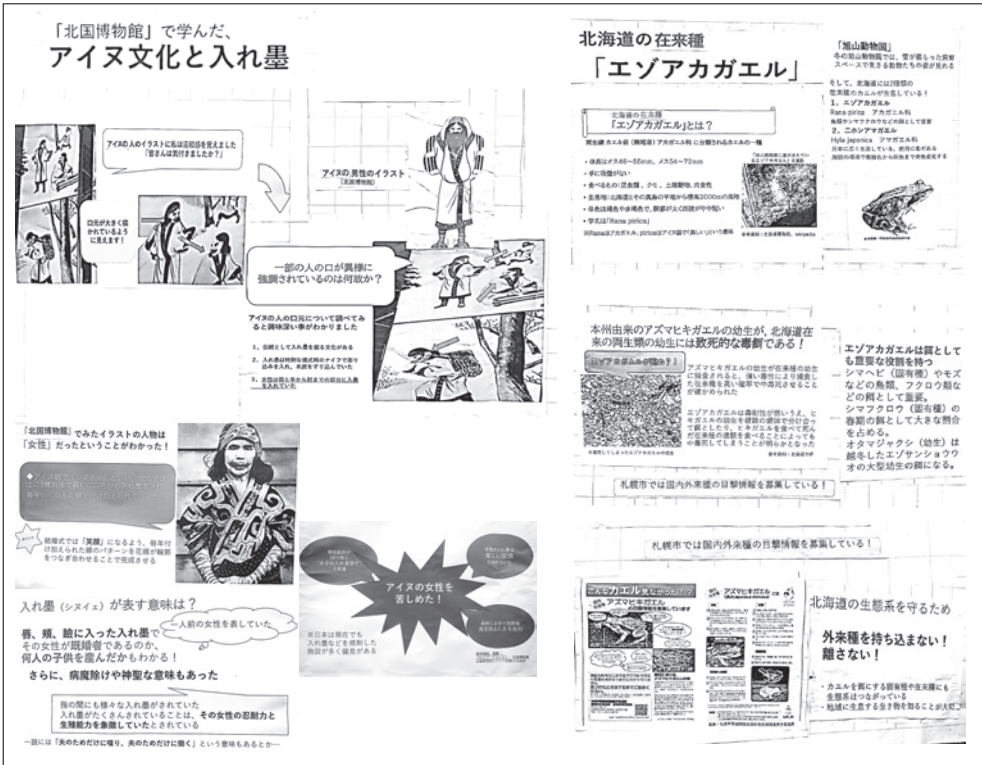
私は初めて北海道へ行き、二つのことに興味を持ちました。一つ目は、「北国博物館」のアイヌ民族です。博物館での説明が楽しく、帰宅後も家族に撮影した写真を見せながら説明しました。すると、ある疑問にたどり着きました。アイヌの生活が描かれた写真を見た母が、「女性はいないの?」と聞いたのです。私は、「うん。男性ばかりだったと思う。」と答えました。「本当にそうだったのだろうか?」と疑問になり見返してみると、一枚の写真に違和感を覚えました。人物の口元にひげが描いている人と、口が大きく塗られたような人がいるのです。そこでネットで調べると、本来の口よりも、とても強調されたアイヌ女性の画像が見つかりました。そして、口元は塗られているのではなく、「入れ墨」で彫られ「女性」に施されていると知りました。私が撮影したイラストの人物は、男女ともに描かれていたのです。私は発見した喜びから、さらにアイヌ女性を知りたくなりました。アイヌ女性は、幼い頃から少しずつ入れ墨をして、結婚式で花婿が笑顔になるよう完成させるそうです。また、その入れ墨の模様から、結婚や子供の人数も分かりました。彫り方は、ナイフで傷を付けて炭を入れるため、苦痛もあるし、化膿することもあります。さらに、明治政府から「女性の入れ墨禁止」が布達されたことで、アイヌ女性は差別の対象になり苦しんだともありました。私も、入れ墨に偏見を持っていたましたが、知ること、文化や風習について正しく理解しなくてはいけないという考えに変わりました。

二つ目は、北海道の在来種「エゾアカガエル」について調べました。私はカエルが好きで、旭山動物園にエゾアカガエルの展示があると聞き楽しみにしていました。でも展示のカエルは、ずっと後ろ姿で動かないままでした。

北海道に生息するカエルはエゾアカガエルとニホンアマガエルの 2 種類です。アマガエルは本州でもよく生息している黄緑色のカエルで、エゾアカガエルは学名を「Rana pirica」と言い、アイヌ語の「美しい」が使われている赤褐色のカエルです。そのエゾアカガエルの幼生が本州に生息する国内外来種アズマヒキガエルの幼生を捕食すると強い毒性により中毒死させるため、カエルを餌にしている他の固有種にも

影響がでてしまいます。生態系を維持するためには、その土地に生息する在来種を守ることが重要なのだと思いました。

この三日間は、私にとって貴重な体験ばかりで書ききれません。名寄市の雪はサラサラで柔らかく、雪合戦に夢中になりました。参加することができて本当に良かったです。



学校名	高井戸第三小学校	5 年	氏名	李 嘉琪
-----	----------	-----	----	------

名寄市の役に立つ冬

名寄市は、冬に雪がたくさんふり、寒く、時にはマイナス 20℃にもなるそうです。そんな寒さや雪ですが、名寄市で役に立っています。例えば、行事があります。スノーランタンをつくり、そのあかりの中で行う雪あかりコンサートです。次に住宅の前につくられるミニ雪像です。家族で協力して作品を作りあげます。さらに、世界からアーティストを招いて行う国際雪像ちょうこく大会があります。大きな作品が会場いっぱいにかざられます。このように、名寄ではたくさんの行事があります。名寄では、もち米、さらにアスパラガスの生産が有名です。そのことにも、名寄市の雪や寒さが役立っています。もち米の貯蔵に使われている、雪室型もち米低温貯蔵しせつと言い、「ゆきわらべ雪中蔵」というものもあります。そして農産物出荷調整利雪しせつというものがあります。さらに、アイヌの人も雪や寒さを利用していました。

ですが、役に立つことばかりではありません。ですので、アイヌの人も対さくをしていました。チセという家で、かべもうすく、つかいしにのっかっているだけの家で、寒く、雪がつもり、大変でした。ですので、ストーブをつくり、また、そのストーブの熱でお湯をわかす工夫をしていました。ゆきかき道具も今は軽いプラスチックですが、前は重い鉄だったのです。明治 30 年に南から名寄まで鉄道が開通すると造材山から流送された原木が、名寄駅の貯木場に集められました。そのさい、雨の上をすべらせながら運ばんしていました。このように、名寄では雪や寒さによって生活における多くの工夫をしていて、それは今も続いています。



学校名	馬橋小学校	5 年	氏名	遠藤 愛
-----	-------	-----	----	------

名寄の冬と杉並の冬～東京生まれ東京育ちの私が体感した-10℃の世界～

私は東京生まれ東京育ちで、両親も関東の出身のため、今まで雪国に行ったことはありませんでした。今回初めて名寄市に行き、杉並とのちがいにこだわったので、名寄と杉並のちがいについて調べてまとめてみることにしました。

まず、気温について調べてみると、名寄と杉並では、12月の平均気温の差が最高平均気温・最低平均気温ともに14℃近くあることがわかりました。気温の差は服装にもあらわれていて、杉並では冬でもコートとスニーカーで過ごせますが、名寄ではスキーウェアとスノーブーツがないと外を歩けませんでした。

次に、それぞれの土地の産業について調べてみました。名寄では、盆地特有の寒暖差を生かしたもち米作りや、アスパラガスなど農作物生産が有名で、雪質日本一の雪を活かしたスキーや天体観測などの観光業もさかんだとわかりました。名寄の雪はとてもふわふわで、かまくら作りやスノーシュートレッキングなど、雪国ならではのあそびが楽しめました。杉並では、トマトやダイコンなどのすぎなみ野菜

の生産がさかんです。また、杉並にはアニメ制作会社がたくさんあり、アニメのまち杉並として有名です。

その他にも、名寄にはヒグマやキツネなどの大型動物がいるが杉並にいる野生動物は小動物中心であることや、名寄は積雪量が多いため、住宅に無落雪屋根や二重まどが用いられるなど、落雪や寒さを防ぐ工夫がされていることがわかりました。

私は、名寄に行った3日間で、名寄についてたくさん知り、学び、体験することができました。同じ日本でも、地域によってたくさんのがいや特色があることを知れて本当に良かったです。

これからも名寄と杉並の土地や暮らしについて、おたがいに教え合い、交流を深めていけたらうれしいです。



学校名	堀之内小学校	5 年	氏名	佐々木 美織
-----	--------	-----	----	--------

知ってほしい！名寄の美味しいもち米

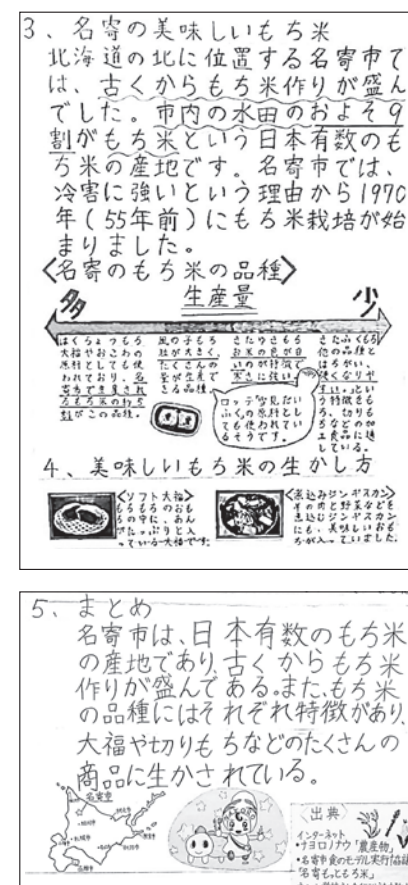
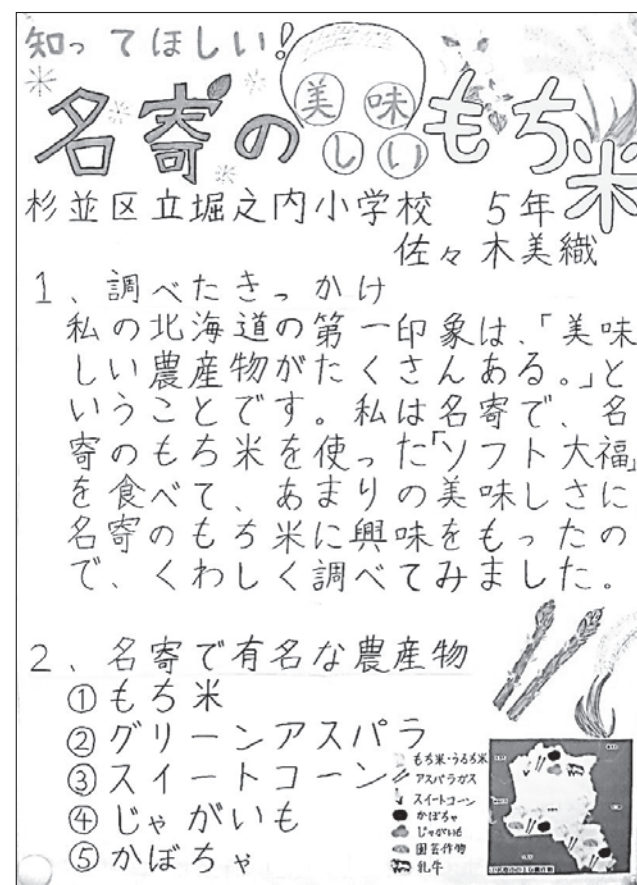
私が「名寄市に行って学びたいこと」を考えたとき、一番最初に思いついたのは、名寄市の有名な農産物についてでした。北海道では、牛乳やじゃがいもなどが生産されていることは知っていました。そう感じている中で名寄に行って、バスの中で、名寄のもち米が使われているソフト大福を食べました。その大福がすごく美味しくて、名寄のもち米に興味をもったので、名寄のもち米について調べてみました。

まず、名寄でもち米が有名なのを知るために、名寄で作られている農産物を調べました。名寄市では特に、もち米、グリーンアスパラ、スイートコーンなどが有名だそうです。その中でも、もち米は名寄市の広い地域で作られていました。もち米は、名寄市の代表的な農産物だと分かりました。

北海道の北に位置する名寄市では、古くからもち米作りが盛んで、市内の水田のおよそ9割がもち米という日本有数のもち米の産地です。名寄市では、冷害に強いという理由から1970年にもち米栽培が始まったそうです。

次に、名寄市で作られているもち米の品種とその特徴について調べました。1つ目は、「はくちょうもち」です。大福やおこわの原料としても使われており、名寄市で生産されるもち米の約5割が、この品種だそうです。2つ目は、「風の子もち」です。粒が大きく、たくさんの量が生産できる品種です。3つ目は、「きたゆきもち」です。お米の色が白いのが特徴で、寒さに強い品種です。4つ目は、「きたふくもち」です。他の品種とはちがい、硬くなりやすいという特徴をもち、切りもちなどの加工食品に適しているようです。もち米には、品種ごとにそれぞれの特徴があり、ちがいがあることにびっくりしました。

私は名寄に行って、名寄の農産物だけでなく、名寄の自然の豊かさや雪や星のきれいさなどたくさんのことを学びました。こんなに色々な経験をして、たくさんのことを学べたのは一生の思い出です。また名寄に行きたいです。



学校名	高井戸第四小学校	6 年	氏名	福森 香月
-----	----------	-----	----	-------

きたすばる「ピリカ望遠鏡」で知ったこと

私は、「きたすばる」についてまとめました。理由は3日間の中で星の観察が楽しかったし星についてもっと知りたくなったからです。

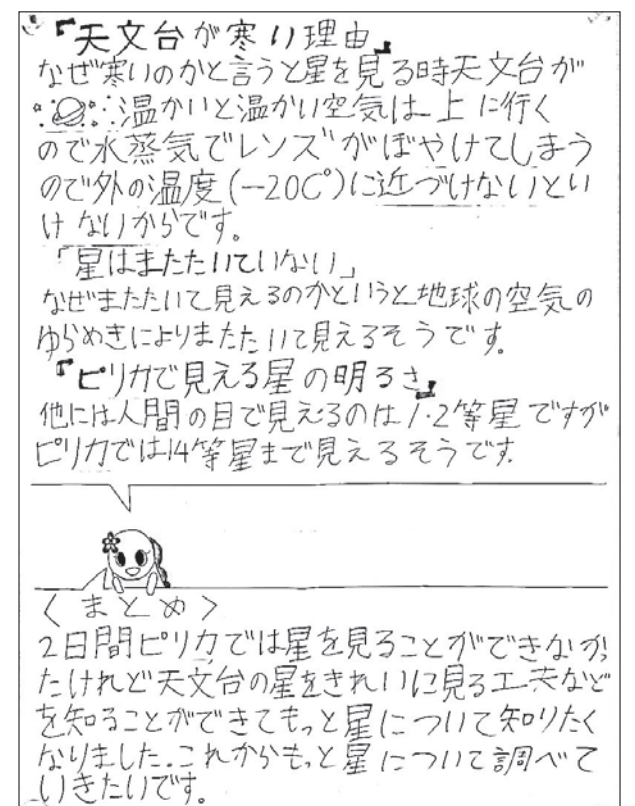
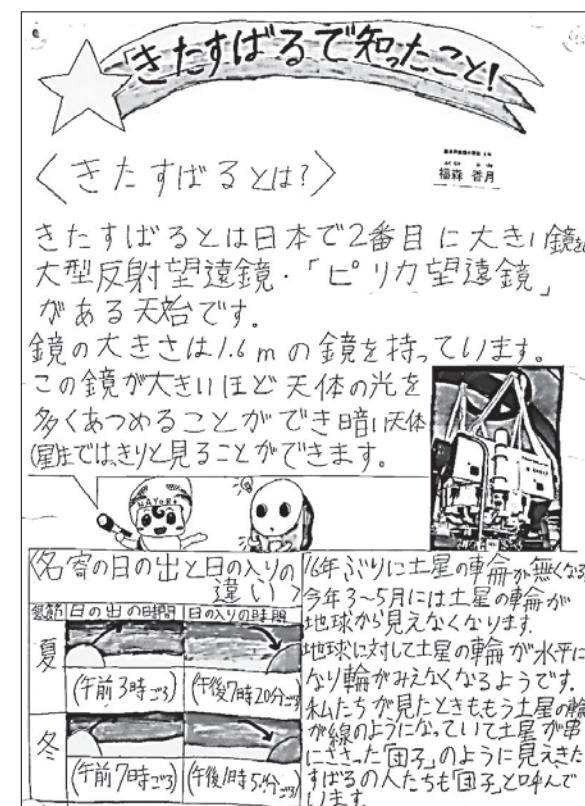
きたすばるは日本で2番目に大きい鏡をもつ大型反射望遠鏡・「ピリカ望遠鏡」がある天文台です。

1日目は最初にレクチャールームでお話がありました。次にプラネタリウムで名寄の日の出や日の入りの違いについて学習しました。名寄は夏の日の出が午前3時で午前1時すぎには明るくなりはじめます。日の入りは午後7時20分ぐらいですが暗くなるのは9時すぎだそうです。名寄の夏は、日が出ている時間がとても長いです。冬の名寄で一番日の入りが早い日は12月10日ごろで、午前7時ごろに日の出午後1時5分には日の入りだそうです。名寄は気温の寒暖差も激しいですが夏と冬の日の出日の入りの変化も大きいです。

プラネタリウムの後、いよいよピリカ望遠鏡を見に行きましたが天気の影響で星は見れませんでした。でもとてもおどろいたことがありました。それは観測室がとても寒いということです。なぜ寒いのかというと、星を見る時天文台が暖かいと暖かい空気は上にいくので水蒸気でレンズがぼやけてしまうので、外の温度(−20℃)に近づけないといけなからです。また、人間の目で見えるのは1・2等星までですがピリカでは14等星まで見るができます。また星はまたたいていないということも教えてもらいました。星は地球の空気のゆらめきによってまたたいて見えるそうです。

2日目も天気の影響で星を見るできませんでした。しかし別の屋上観測室で土星などが見れました。土星は今年の3月には見かけ上輪っかがなくなるそうです。私たちが見た時は串刺しになっていて、「団子」と呼ばれているそうです。

2日間ピリカでは星を見られなかったけれど、天文台の美しい星を見るための工夫や、星がなぜまたたいて見えるのか知ってもっと星のことについて知りたくなりました。これから星について調べていきたいです。



学校名	井荻小学校	5 年	氏名	森田 悠玄
-----	-------	-----	----	-------

北海道に生息している動物たち

僕たちは北海道に行ってたくさんのことを学びました。その中で僕が研究テーマにしたのは北海道の動物の生態についてです。

なぜこのテーマにしたかというと、北海道にはどのような動物がいて、どのような生態をしているか気になったからです。また、ぬらしたタオルが凍るほど寒かった中で動物たちはどのように冬をこしているか気になったからです。

まず僕が調べた北海道に生息する動物の種類です。種類はキタキツネ・エゾタヌキ・エゾシマリス・エゾリス・エゾクロテン・エゾユキウサギ・エゾモモンガ・エゾヒグマです。他にもシマエナガなどの動物もいますが、今回はこの8種類について調べました。

次に北海道に住む動物についてです。

まず、キタキツネについてです。アカギツネの一種で、エサは主にネズミ・鳥類・昆虫・は虫類・エゾシマリス・エゾリスなどです。また、エゾユキウサギも捕食します。冬は活動したり繁殖したりしています。

次にエゾタヌキについてです。エゾタヌキは北海道の森林や川などがあるところに生息しています。クマになぜか捕食されないのでクマの巣の近くに巣をつくる個体もいる。冬は巣に籠っているか半冬眠をしています。

次にエゾシマリスについてです。北海道全域と利尻島・天売島・焼尻島・択捉島・北方領土に生息しています。海岸沿い・都市近郊の森林などに生息しています。冬は冬眠しています。

次にエゾリスについてです。北海道の平野部から亜高山帯の森林などに生息しています。春は朝から夏は日の出から日没まで秋は昼間冬も朝に活動しています。冬は活動しています。

次にエゾクロテンについてです。北海道の道央・道北・道東の森林に生息しています。一年中活動しています。活動時間は定まっていません。冬は活動しています。

次にエゾユキウサギについてです。北海道の平野部から亜高山帯にかけて生息しています。活動は主に昼で冬になると夜にも活動しています。

次にエゾモモンガについてです。北海道の千島列島に生息しています。主に夜行性だが春から夏の繁殖期や冬の寒さが厳しい時は昼でも活動します。

最後にエゾヒグマについてです。北海道の平野・原野に生息しています。活動時間は決まっておらず、発情期と子育て期以外は常に単独行動です。冬は巣に籠っています。

僕はこのことを調べて北海道には多様な環境があり、その中に様々な動物が生息していることがわかりました。さらにこの環境を残すことでたくさんの動物が繁殖できると思いました。寒いからこそそれぞれの生き方をしている動物たちを僕はステキだと思います。同時にその動物たちに驚きました。他にも北海道に生息している動物はたくさんいます。よかったら他の動物たちも調べてみてください。

僕はこのことを調べて北海道には多様な環境があり、その中に様々な動物が生息していることがわかりました。さらにこの環境を残すことでたくさんの動物が生きることができると思います。

学校名	桃井第二小学校	5 年	氏名	山本 愛莉
-----	---------	-----	----	-------

名寄で出会った文化歴史＋グルメ

私は名寄で多くのことを学び、体験しました。特に、北国博物館でアイヌの文化と北風磯吉についての学びが印象に残っています。

アイヌ文化の成立は室町時代だと言われています。当時の日本は今よりも涼しく、アイヌの人々は一年の半分は雪などの寒さと向き合って暮らしていました。アイヌの生活用品の多くは移入品です。古い文献には中国政府や本州との交易のことが記録されています。名寄にも交易による移入品があったそうです。

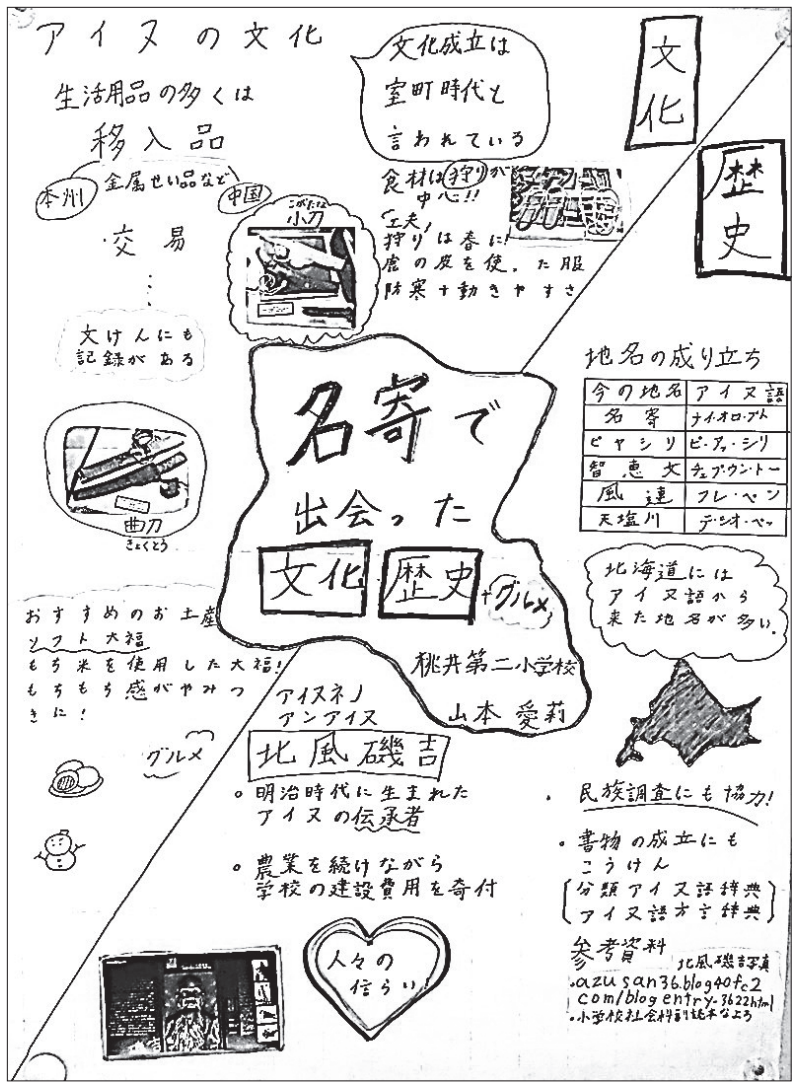
一方で、アイヌは狩りを中心に食糧を得る生活をしていました。自然物には神様が存在すると考えられていたようです。代表的な狩りとしては熊狩りが有名ですが、一筋縄ではいきません。狩りは冬眠から目覚めたばかりで熊の体力が十分でない春先に行い、鹿の皮を活用して防寒対策と動きやすさを追求した服装や、毒矢を持って臨んでいたそうです。アイヌの狩りには生きていくための知恵がたくさん詰まっていると感じました。

次に、北風磯吉についてです。

北風磯吉は名寄地方のアイヌの伝承者で、学校建設の費用を寄付するなど、人々の信頼を集めました。また、多くの民族調査に協力し、分類アイヌ語辞典、アイヌ語方言辞典などの書物の成立に貢献しました。北海道にはアイヌ語から出来た地名が多くありますが、実は名寄という地名もそうです。アイヌ語で川のところの口という意味の「ナイ・オロ・プト」という言葉が語源になっています。

私は北国博物館での学びを通して、アイヌの人々の暮らしと自分の暮らしとの違いに驚きました。また、北風磯吉のように、アイヌの文化を後世まで伝えていこうとする人々の思いにふれ、とても勉強になりました。

他にも名寄の食べ物など、紹介したい物はまだまだあります。今回の名寄自然体験交流事業で学んだこと、グループの友達との活動や現地で出会った友達との交流は貴重な体験になりました。ありがとうございました。



学校名	高井戸第三小学校	5 年	氏名	安西 泰誠
-----	----------	-----	----	-------

幸運を呼ぶサンプラー

私が名寄に行って学んだことはサンピラー現象です。サンピラー現象を調べようと思ったのは事前学習会で見た時、神秘的な光景だと感じたからです。

まずサンプラー現象が起こる条件について説明します。条件は主に 5 つあります

1つ目は気温が約-15度以下であること。これによって、空気中の水蒸気が凍ります。

2つ目は天気が晴れていること。天気が晴れていないと太陽の光が通りません。

3つ目は風が吹いていないこと。これによって、氷の結晶の向きがそろいやすく、また地面に対し水平になり、きれいなサンピラー現象を見ることができます。

4 つ目はある程度湿度があること。

5つ目は早朝や夕方の時間帯であること。氷の結晶が地面と平行になった時に、低い位置で太陽の光が反射することで、サンピラー現象が起こります。氷の結晶の向きと太陽の位置が重要なのです。

この条件がそろいやすい町は限られていて北海道では私達の行った名寄市が有名です。

名寄には私達がお世話になった「サンプラー温泉」や「サンプラー交流館」などサンプラーとつく施設が多くありました。

交流した名寄の児童にサンピラー現象を見たことがあるか聞いてみたところ、実際に見たことがある人は非常に少なかったです。発生条件を満たしやすい名寄でも見られる機会が少ないため、サンピラー現象を見ることができたら幸運です。

このきれいなサンピラー現象も、地球温暖化等の影響で見られなくなるかもしれません。このサンピラー現象を守るためにも、環境に少しでも貢献しようと思いました。

今回はサンプラー現象を見ることができませんでしたが一生に一度は見たい神秘的な光景なので、またいつか名寄に見に行きたいです。



幸運を呼ぶ サンピラー





高井戸第三小学校 5年 安西 泰誠

サンピラー現象が起こる条件

サンピラー現象が起こる原因は主に5つあり

- ①気温が約マイナス15℃以下
- ②曇っている
- ③風が無い
- ④ある程度の湿度がある
- ⑤今朝や夕方の時間帯であること。

この条件さえ満たせば一応どこでも見ることが出来ます。

サンピラー現象の条件にある「風の無い日」には、氷の結晶の向きがそういやく、地面に対して水平になります。この向きのそろった氷の結晶に、朝日や夕日などの低い位置からの太陽の光が反射することで、柱状の太陽の虚像が出現します。



Photo by 大田 浩二

厳しい条件を満たせる街

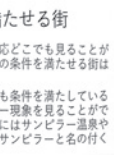
条件さえ満たせば一応どこでも見ることができるとはしてもこの条件を満たせる街は少ないのです。

僕たちの行った名客でも条件を満たしている为名客でもサンピラー現象を見ることが出来ます。そのため名客にはサンピラー温泉やサンピラー文楽館などサンピラーと名の付く場所も多いです。

サンピラー現象が起きる理由

サンピラー現象は空気中に浮かぶ氷の結晶によって引き起こされます。

空気中の氷の結晶は六角形の板状をしており、これに光が反射することで輝いて見えるのですが、サンピラー現象は氷の結晶の向きが重要になってきます。



・ <http://travel.japan.com/en/PHOTEL/179626/179626.html>

[illegible]

学校名	済美小学校	6 年	氏名	塩野 健斗
-----	-------	-----	----	-------

北国博物館で学んだアイヌ文化

僕が小学生名寄自然体験交流事業に参加しようと思ったきっかけは、北海道のアイヌ文化に興味があったからです。実際に北国博物館に行き、アイヌの文化についてたくさんのことを学ぶことができました。

一つ目はアイヌ民族の考えです。アイヌ民族は、すべてのものに魂が宿ると信じていたそうです。そのため、アイヌ民族は物や動物を大事にしていました。僕たちはあまり物を大事にしていなかったり、食べきれないご飯を残してしまうことがあったりするので、僕もアイヌ民族を見習って、ちゃんと物などを大事にしようと思いました

二つ目はアイヌ民族の家の作りです。アイヌ民族の家の作りは自然との共生を象徴しているように感じました。家の作りの構造はまず、自然でとれた木で家を作っています。隙間などがあると寒くなってしまうため、建物の周りにわらをしきつめて寒さをしのいでいました。僕はそれを見てすごく寒そうだなと思ったけど、アイヌ民族はすごく工夫していることを知ることができました。

三つ目はアイヌ民族は文字を持たなかったことです。どうしてアイヌ民族が文字を持たなかったのか知りたいと思い、本で調べてみました。はっきりとした理由はわからなかったですが、二つの説が見つかりました。一つ目は、文字を持つ目的が分からなかったことです。二つ目は自分たちだけコミュニケー

北国博物館で学んだアイヌ文化

洛美小学校 6年
塩野 健斗

アイヌ民族の考え

自分たちの生活を支えてくれる
物や動物には神が宿っている

物や動物などを大事にしていた

アイヌ民族の家の作り

アイヌでは家を「チセ」という

室の特徴

- ・材料は木や草の自然物で釘などは使用していない
- ・壁はカヤやヨシが使用され、断熱効果があった
- ・窓は東に1か所南に2か所平尾でいて、東は神様が出入りする窓として大切にされていた

アイヌ民族が文字を持たなかった？

2つの説

- 1 文字を持つ目的が分からなかった
- 2 交易などで自分たちだけ喋れて交易の利益を独占しようと思っている。

僕は2こめの説が有力だと思っています。

アイヌ民族と交易

- ・本州や大陸(中国)と交易をしていた
- ・アクセサリーや壺とアイヌ民族からは服などを渡していた

参考文献

・アイヌ文化の基礎知識：株式会社 草原館 2018年1月発行

画像出典

- ・杉並区
<https://www.city.suginami.tokyo.jp/s033/10623.html#p1>
- ・Walkerplus
<https://www.walkerplus.com/article/137421/>
- ・北国博物館
<https://hokkaido-digital-museum.jp/facility/nayoro-city-museum/>
- ・国立アイヌ民族博物館 <https://nam.go.jp/activity/event/holiday210710/>

・アイヌ文化をもっと知りたい

アイヌ民族にかかわる映画、本などを読む

・もっと北海道のことを知りたい

調べてみた感想

学校名	西田小学校	5 年	氏名	福留 梨里子
-----	-------	-----	----	--------

アイヌの文様と名寄の雪

私は、名寄自然体験交流事業で、アイヌの文様と、名寄の雪に興味を持ちました。

名寄市出身の担任の先生が、この交流事業を紹介して、アイヌの文様が刺しゅうされたハチマキを見せてくれました。今回、北国博物館に行き、刺しゅうされた小物や衣類を見て関心が深まり、調べることにしました。

文様とはかざりのためにつけられた図がらのことです。アイヌの文様には魔除けなどの意味があります。アイヌの文様は家紋のような役割で、母方の文様が子に受けつがれます。北国博物館で実際に衣服の背中の部分やすそに刺しゅうされているものを見ました。女性の場合、衣服を作りそれに刺しゅうをすることができれば結婚適れいとされていました。衣服の文様の作り方には、刺しゅうと、布を切り、それをぬい付けるアップリケのような方法があります。刺しゅうの仕方も「くさりぬい」などがあります。文様の形にもいろいろな種類があり、北国博物館では、「モレウ」という渦巻き状の文様を見ました。他にもハート文様など、たくさんの種類があるそうで、どんな文様があるのか、自分でも実際に文様をつくってみたいと思いました。

名寄の雪は、杉並区の雪とは違い、とても軽くサラサラしていました。固めようと思ってもなかなか固まりませんでした。水蒸気からできる雪の結晶が低温の影響で乾いた状態で地上に降ってくるので、非常にふわふわした粉雪になります。大きな低気圧や主に北海道の北西側から流れてくる筋状の雲が名寄にサラサラの雪を降らせます。雪質日本一の名寄の雪は想像以上にサラサラで驚きました。

私は北国博物館でアイヌの文様を見て、「なぜこのような形をしているのだろう？」と思いました。調べるといろいろ面白いことがわかりました。また、名寄の雪は軽くてサラサラで驚きました。今回、この交流事業で名寄に行き、これまでの人生で初めての経験をたくさんできてよかったです。



学校名	荻窪小学校	5 年	氏名	眞砂 瑠依
-----	-------	-----	----	-------

名寄の雪

私は名寄でしか見れないサラサラな雪についてもっと知りたくなり、調べてみました。

名寄市は雪質日本一のまちを宣言していて、その雪はシルキースノーとよばれています。シルキースノーはパウダスノーよりさらキメ細雪です。シルキースノーは、気温が低いなどの条件があります。(気温が低すぎてもできないそうです。) 名寄は、その条件がそろっているのでシルキースノーができます。

けれど杉並区はその条件がそろっていないので雪がふっても、シルキースノーのようにはずぐ溶けてしまいます。

他にもシルキースノーと関係のありそうなところをさがしてみると、雪の結晶の形が関係ありそうだな！と思いました。

調べてみると、雪の結晶には、針状や角柱状、樹枝状、扇状などがあることがわかりました。名寄のは、樹枝状みたいな形で樹枝状は細かいので、雪の結晶が細いほど雪もこまかくサラサラになるのではないかと思います。(ちなみに雪の結晶は温度と水蒸気の量で決まり、樹枝状は－20℃で水蒸気が多いです。)

名寄の雪がふる時期について

杉並の初雪が12月～1月なのに対して、名寄は10月末～11月と、とても速いです。

雪が降っている時期は、杉並は12月～2月なのに対して、名寄は10月末～4月までととても長く、雪が12月頃になると100cm以上つもるそうです。)

除雪は、雪が多いので雪国にすんでいる人からするととてもたいへんで、除雪車、除雪機をつかっていて、除雪が大変そうでした。

雪おろしとは、屋根の雪を下すことで、下すときに人も落ちる可能性があるるので危険です。その危険がないのが無落雪屋根です。

けれど雪が重くてドアがあかなくなってしまうので名寄ではみかけませんでした。

名寄のイベントについて

名寄では2月頃に『なよろ雪質日本一フェスティバル』があります。人気キャラをテーマに雪像を作ったり、雪でできたすべり台や巨大迷路、スノーモービル遊覧、犬ぞり体験ができるすてきなイベントがあることが分かりました。

私は名寄に行って、杉並では見れない物を見るという体験ができて、沢山のものに興味を持つことができたと思います。この体験をもとに「こんなじゃないか」や「こうした方がいいな」と自分でちゃんと考えることができて、自分の世界が少し広がったと思います。また名寄に行きたいです！



学校名	方南小学校	5 年	氏名	松井 悠
-----	-------	-----	----	------

アイヌの人の暮らし

アイヌの人は寒い中でどう生活しているか疑問に思ったことからぼくは、北国博物館が印象に残り、テーマを「アイヌの人の暮らし」に決めました。これからアイヌの人の衣食住、人々に関わる自然の四点を説明します。

まず始めにアイヌの狩りについてです。これは食や人々に関わる自然にあたります。アイヌの人は春に冬眠して起きたばかりの体力がない熊を毒矢で倒すので、効果的な狩りができます。夏は河口や海岸で沿岸漁業をし、秋には越冬するための鮭を川でとり、冬は、雪に残る足跡をたどり、雪で足が遅くなった鹿を仕留めます。

次はアイヌの人の暮らしについてです。これは衣食住の住にあたります。アイヌの人はスキーと親しみが有り、スキーの初めは雪の上の歩行具として使用され、その後、板の構造がかわり今のスキーができ、同時に作業用のスキーもできました。次にアイヌの人の家です。アイヌの人の家は主に長方形で壁や屋根は笹葺きで防寒をしていました。笹を沢山使用し、厚みを作っていて、内装では部屋の中央に暖炉を置き、入口の正面に神窓という、神が出入りする神聖な窓がつけられています。肉などを運び込んだりするのに使われていました。そして、防寒として、本州から何十種類ものストーブをもってきていました。アイヌの人はすべてのものにカムイという神が宿っているとされ、人間しかもっていないものをカムイに授けるということも行ってきました。そして今のアイヌ民族についてです。人口は数万人と言われていて、主に北海道に住んでいます。生活は今の日本人と変わりませんが、伝統文化は守られていて、積極的にアイヌ文化を継承しています。

最後に、アイヌの人の暮らしに関係する動物のことです。これは、人々に関係する自然にあたります。北海道の北東部の森林は広葉樹と針葉樹が混ざりあった「針広混交林」になっています。そこにアイヌの人々に関係する動物が住んでいます。例えば、キタキツネ、エゾユキウサギ、エゾモモンガ、ニホンイイズナ等です。キタキツネはアイヌの人々からたくさんいる物とよばれナヨロでは神としてまつっていました。エゾユキウサギは、ナヨロでは「キイキイ鳴く小さな生き物」とよばれ、冬毛と夏毛があります。エゾモモンガは鳴き声が子守歌に聞こえることからアイヌでは子守歌の神とされていました。ニホンイイズナは世界最小の肉食獣と呼ばれネズミ等を食べます。どの動物もアイヌの人の身近な動物なのです。

この体験を通して、ぼくは、アイヌの文化や自然について調べてさらに興味をもちました。他にも様々な体験があり、名寄に行ってよかったなと思いました。今度学んできたことを友達にも話したいです。



問いも答えも自分の中にある

沓掛小学校 校長 浅見 優子

今年も名寄の大自然の中で、素晴らしい体験をしました。普段は都会の喧騒の中で過ごしている子供たちにとって、名寄の美しい自然は新鮮で貴重なものだったようです。星空観察、スノーシューやカーリング体験、雪遊びなどなど。多様な活動を通じて、自ら考え行動する力、協力し合う大切さを学んでくれたことと思います。

また、これらの活動を通じて、仲間との絆を深め、互いを尊重し、助け合う姿が育まれたことは、行動を共にした私たちにとって非常に喜ばしいことです。名寄自然体験交流が、子供たちの成長に大きく寄与したと確信しております。

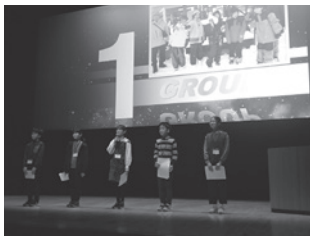
思い返せば、参加した子供たちは、名寄自然体験交流に応募するときから「学びたいことは？」と問われていました。「実験タイムでしたいことは？」「雪遊びでしたいことは？」子供たちは実に真摯に自らに問いかけ答えをみつけ、さらに、たくさんの問いを生み出してきました。その問いの中には、すぐ答えが出てしまうものもあれば、考えても調べても答えの見つからないものもありました。やりたいことを見つけても、うまくいかないものもありました。やってみただけで、一人ではできないものもありました。

そうした問いに子供たちは繰り返し挑戦し、知恵を出し合い、力を合わせて答えを導き出していました。時には、あきらめることもありましたが、それでも、次の問いを見つけ、果敢に挑んでいました。その姿のほんの一部がこの報告書です。ぜひ手にとり、子供たち一人一人の足跡をたどり、熱い思いを共有していただけたら幸いです。

自然体験交流から戻ると、成果発表会が待っていました。今度は「何を伝えたいですか？」「報告したいことは何ですか？」という問いに取り組みました。ご家族の応援を必要としたときもあったでしょう。そして、セシオン杉並の舞台に立ち、自分の言葉で発表するその姿のまぶしかったこと。喜びと達成感に満ち満ちた姿は、本当に素晴らしかったです。

さらに問いを追求するうちに、厳しい現実や悲しい歴史に出会ったお子さんもいました。けれど、知らない自分にはもう戻れません。無関心ではいけない、もっと知ろうと学び続ける姿、やむにやまれぬ衝動が、会ったことのない大勢の人を幸せにするのだらうと思いました。ここに集った子供たちが創り出す社会は、家族を、友達を、世界を、そして自分自身を幸せにするすばらしい社会だらうと期待が膨らみました。

結びに、ご賛同ご協力いただきました皆様、名寄市教育委員会、保護者の皆様、本事業を所管する生涯学習推進課、全ての関係者の皆様に感謝申し上げます。これからも自然体験交流を通じて、子供たちが多くを学び、大きく、たくましく成長していくことを心から願っています。



＊限られた時間の中で過ごす仲間だからこそ、一緒に目一杯楽しもう、仲良くなろう、迷惑をかけないようにしよう、常にそういう気持ちがあったようでした。帰ってきてから以前にも増して、気がついて行動する、他人に気を遣うということが出来るようになっていると感じられました。帰宅後は、名寄で体験したことをスケジュール通りに細かく説明してくれ、話が止まりませんでした。経験したことを何一つ忘れたくない、そんな風に受け取れました。

＊名寄の歴史、自然を体感し、新しいお友達と寝食を共にして、生活したことは貴重な体験となりました。事前学習を通して、名寄に興味をもつことから始めて、名寄で冬の文化や食、遊び、歴史を学び、帰ってきた時には達成感と自信に満ち溢れ、大きな成長となったと思います。

＊通常の観光とは異なり、学習や現地の児童との触れ合いが組み込まれた旅程だったので、ただ楽しいだけではなく、大いに遊び学ぶことができたようです。また、名寄への派遣期間中だけではなく、2ヶ月かけて事前学習を行い、帰京後も体験したことを基に調べ学習や学習成果発表会を行うため、長期に渡り学習意欲を継続させる仕組みが素晴らしいと感じました。

令和6年度名寄市・杉並区交流事業

事業名	概要	時期
北海道名寄市の「夏」写真展	名寄市の夏の風景写真を杉並区役所にて展示しました。	令和6年 5月27日～31日
アスパラまつり	杉並区役所でアスパラガスや大福等の特産品を販売しました。	令和6年 5月29日～31日
白樺まつり	東京高円寺阿波おどり親善訪問おどり団（31名）と区代表团（3名）が名寄市を訪問し、まつり会場で踊りを披露しました。	令和6年 6月15日～16日
杉並区・名寄市子ども交流会	夏休みに、両自治体の小学4年生から6年生が、相互に訪問し交流しました。	名寄編 令和6年 7月28日～31日 杉並編 令和6年 8月5日～8日
東京高円寺阿波おどり	東京高円寺阿波おどり本大会に名寄市のおどり団「風舞連」が参加しました。	令和6年 8月24日
スイートコーンまつり	杉並区役所でとうもろこしや大福等の特産品を販売しました。	令和6年 8月29日～30日
杉並区×名寄市交流35周年記念ジャズを楽しみ杉並の魅力を 知るツアー	13名の名寄市民が杉並区を訪れ、阿佐谷ジャズストリートを体験したほか、区内施設の見学などを行いました。	令和6年 10月25日～27日
すぎなみフェスタ	交流自治体合同物産展に出展し、なよろ煮込みジンギスカンの販売や大福等の物販販売をしました。また、会場内では名寄市の市立天文台きたすばるの移動式天文台車がやってきて、観望会も行われました。	令和6年 11月9日～10日
冬のなよろ写真展	名寄市にて作成している冬カレンダーの掲載作品および応募作品の一部を杉並区役所にて展示しました。	令和6年 12月16日～20日
五感で感じる交流自治体「名寄市」	杉並区民を対象にセシオン杉並で生産量日本一のもち米を使ったもちつき体験と試食をするイベントを実施しました。イベントには名寄市からもち大使2名がやって来ました。	令和6年 12月19日
なよろ雪質日本一フェスティバル・ふうれん冬まつり	杉並区代表团（2名）が名寄市を訪問し、雪像コンクールにて区長賞・議長賞の表彰をしました。	令和7年 2月8日～9日
杉並区×名寄市交流35周年記念運命屋展	北海道名寄市ですべての撮影が行われた映画「運命屋」の衣装や内容の紹介を杉並区役所にて展示しました。	令和7年 2月15日～21日
杉並区×名寄市交流35周年記念運命屋上映会	北海道名寄市ですべての撮影が行われた映画「運命屋」の上映会を座・高円寺で実施しました。	令和7年 3月2日

令和6年度 小学生名寄自然体験交流事業報告書

令和7年3月発行
編集・発行 杉並区教育委員会事務局生涯学習推進課
〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1
☎ 03-3312-2111（代表）
☆杉並区のホームページでご覧になれます。 <https://www.city.suginami.tokyo.jp>

登録印刷物番号

06 - 0109

北海道名寄市のご案内

北海道の北に位置する名寄市は、天塩川と名寄川が豊かな恵みをもたらし、もち米やアスパラガス等が国内屈指の収穫量を誇る、農業を基幹産業とする都市です。夏と冬の寒暖差が最大で 60℃にもなり、日本最大級の望遠鏡を持つ市立天文台「きたすばる」や、雪質日本一ともいわれるスキー場などがあります。

杉並区と名寄市の交流は、平成元年7月に旧風連町と交流自治体協定を結んだことに始まります。その後住民同士の幅広い交流が続いてきましたが、平成 18 年 3 月には旧風連町と名寄市とが合併し、新しい名寄市としてスタートを切りました。杉並区と名寄市は、これまで築いてきた両自治体の関係をさらに発展させていくため、平成 18 年 6 月に協定を再締結し、より一層の交流を深めています。



名寄市のデータ

面 積 535.20 km²
 （杉並区 34.06 km²）
 人 口 24,702 人
 世帯数 13,674 世帯
 （令和7年1月末現在）



北国の春を彩る芝桜



夏のひまわり畑



生産量日本一を誇るもち米の稲穂



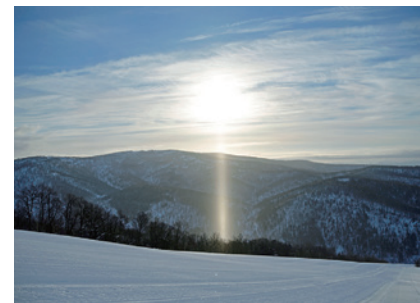
なよろ市立天文台 きたすばる



名寄市
観光キャラクター
「なよろ」



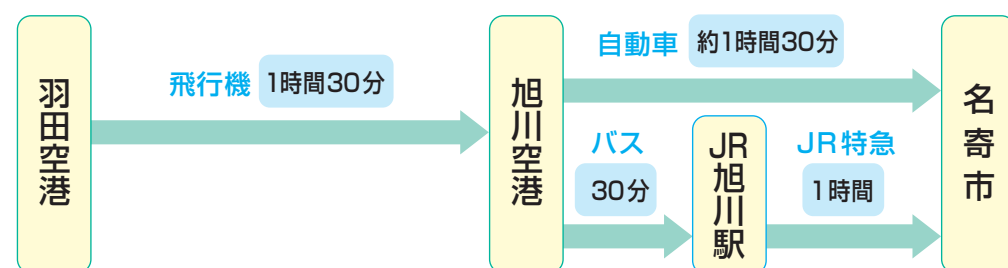
雪質日本一！ピヤシリスキー場



神秘的なサンピラー現象

名寄市へのアクセス

名寄市公式サイト



「小学生名寄自然体験交流事業」は 杉並区次世代育成基金を活用しています

杉並区次世代育成基金は、次代を担う子どもたちが、自然・文化・スポーツなどさまざまな分野における体験・交流事業への参加を通して、視野を広げ、将来の夢に向かって健やかに成長できるように支援するための杉並区独自の仕組みです。

平成24年度の創設より、寄附者の皆さまからの継続的なご支援をいただくことで、多くの子どもたちに貴重な体験を提供することができています。寄附者の思いが基金を通じて子どもに託され、その子どもたちが大人になり、さらに次の世代を育んでいく。

この「支援の循環」が杉並に根付き、希望に満ち溢れた未来へとつながるよう、一人でも多くの皆様のご支援をお願いいたします。

区主催のイベントや次世代育成基金活用事業の報告会などで募金活動を行っています。杉並区次世代育成基金の詳細については、杉並区ホームページ(下記QRコード)をご確認ください。



子どもたちの夢を応援する
杉並区次世代育成基金へのご寄附をお願いします。



【お問い合わせ】

杉並区児童青少年課 TEL:03-3393-4760 mail:jisedai-ikusei@city.suginami.lg.jp